

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	9
3. 教育課程の編成の考え方及び特色	11
4. 教員組織の編成の考え方及び特色	15
5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	19
6. 施設・設備等の整備計画	31
7. 基礎となる学部との関係	36
8. 入学者選抜の概要	37
9. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施	40
10. 2 以上の校地において教育を行う場合	41
11. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所 で履修させる場合	42
12. 管理運営	43
13. 自己点検・評価	45
14. 情報の公表	47
15. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	52

1. 設置の趣旨及び必要性

1-1 我が国における獣医学教育の現状

欧州連合における獣医学教育の大幅な改革を受け、近年、世界の潮流は獣医学教育の共通基準と評価システムの構築に向かっている。国際獣疫事務局（OIE）は、高度な専門性の備わった獣医師を生み出す方策として、2010年に「高品質な国の獣医サービスを提供するために必要な最低限の獣医学科卒業生が身に付けるべき資質」を策定し、防疫需要等の増大に対応し得る国際的通用性を備えた人材の養成を求めている。

我が国では、平成20年9月に文部科学大臣から中央教育審議会に対し、大学における教育の質保証と社会からの信頼性を一層高めるため、社会的要請の特に高い分野における人材養成について、教育課程の充実等を含む「中長期的な大学教育の在り方について」の諮問がなされた。この諮問の趣旨を具現化するためには、グローバル化する社会の中で、国際的通用性を備えた質の高い教育を行うことが必須である。特に、教育の質保証の観点から、獣医学教育を含む医療系専門職の養成機関においては、全ての学生が履修すべき必要不可欠な教育内容を整理したモデル・コア・カリキュラムが整備され、教育課程の充実が図られている。

また、日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会の「わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性」の提言（平成29年3月3日）では、「国内外の社会情勢の著しい変化にともなって人獣共通感染症や家畜疾病対策、食品安全対策、伴侶動物への高度医療対応、野生動物の管理保護、グローバルに展開する医薬品開発を支える動物医学など、獣医学に求められる新たな社会的ニーズが生じた。」とし、多様な社会的ニーズに対応できる国際レベルの獣医学教育体制を早急に整える必要があると提言されている。

このような社会的背景の下、平成24年4月、岩手大学農学部及び東京農工大学農学部は両大学の教育連携により共同獣医学科を設置した。岩手大学は、日本有数の畜産物生産基地である東北に位置し、産業動物の高度獣医療の実践という特色を持ち、一方、東京農工大学は、首都圏に位置し、伴侶動物の高度獣医療の実践に強みを持つ。これら両大学の教育資源を相互に補完し、獣医学における学部教育の充実と高度化を図っているところである。特に、産業動物及び伴侶動物の高度医療分野並びに動物衛生・公衆衛生分野における実践教育の充実を目指しており、平成30年3月に第一期卒業生を社会に輩出する。

1-2 獣医学分野における大学院教育の現状と獣医学研究科共同獣医学専攻設置の趣旨

我が国の獣医学分野における大学院への進学者は、国内大学を卒業した者が全体の約4割、国内の社会人経験者が約3割強、外国からの留学生が約2割という構成比となっている。このように獣医学分野における大学院は、獣医系学部を卒業した者を受け入れるだけでなく現役社会人の知識・技術の高度化を通じたステップアップの一面や、留学生に対する最先端の研究機会の提供を通じた、国際貢献に資するという機能を果たしているといえる。

現在、東京農工大学及び岩手大学は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の構成大学として獣医学を履修する博士課程教育を行っている。岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、これまで25年間にわたり、4大学5連携機関により1大学では実施できない多様な獣医学領域をカバーする教育内容を提供することで、我が国の獣医学の発展に貢献し、多数の研究者及び高度職業人を社会に輩出してきた実績がある。

このように岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、連合大学院の特徴を活かし幅広い分野の研究者養成に貢献してきたが、一方で、各構成大学では、獣医学博士に求められる要求が近年益々専門化していることに考慮し、それぞれの地域が抱える固有の社会的問題の解決に資する更に高度な専門知識と研究能力を身に付けた研究者の人材育成に力を注ぐ必要性が生じている。しかしながら、学部教育の充実と高度化の進展に比べて現状の連合大学院方式では、岐阜大学を基幹校として岐阜から北海道に至る広範囲に構成大学が位置するため、それぞれの大学が有する独自の理念や強み・特色を博士教育に深く反映させることに困難さもあり、また、地域社会に密着した教育研究や研究成果の還元が行いづらいという点も少なからずあった。東京農工大学と岩手大学がカバーする東日本地域は、都市圏から畜産地帯まで多様な地域を含み、特に高度獣医療と公衆衛生及び家畜衛生に関する社会的ニーズが極めて高い地域である。これまで、東京農工大学では首都圏に位置する大学として、動物医療センターを中心とした伴侶動物の高度獣医療を実践するとともに、国際家畜感染症防疫研究教育センターを設置し、首都圏にある国立研究所と連携して口蹄疫などの国際的に重要な感染症の撲滅に貢献している。一方、岩手大学では日本有数の畜産物生産基地に位置する大学として、産業動物の高度獣医療の教育研究を附属動物病院中心に展開している。さらに、動物医学食品安全教育研究センターを設置し、産業動物臨床現場や家畜保健所で働く獣医師に対して卒後教育をはじめとし、東北地域の行政機関や農業共済組合(NOSAI)とともに畜産現場から食の安全の実現に貢献している。

これらの背景を基盤として、東京農工大学と岩手大学は、両大学に設置している共

同獣医学科で掲げた共通の教育理念「人類と動物の健康と福祉に貢献する」を更に深化・発展させるとともに、首都圏を含む東日本地域における様々な獣医学的課題を解決できる、高度獣医学教育研究拠点として共同獣医学専攻を設置することを構想した。本構想は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の歴史と実績を踏まえつつ、連合大学院を解消して、新たなステップとして共同大学院として再編することにより、それぞれの地域が抱える専門性の高い社会的要求に応え得る獣医学博士の育成を行う。このため、共同獣医学科における学部教育の強み並びに両大学のリソースを活かし(学部教育と大学院教育の有機的な接続を中心に据えて)、共同教育課程制度によりそれぞれの大学院に「共同獣医学専攻(博士課程)」を設置することとした。これにより、地域に主体的かつ密接的に教育を還元するために自律的に教育研究を展開する体制を構築する。教育組織は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科における4講座体制を見直して3つの講座体制に集約し、教育課程では動物基礎医学の支援の下、東日本地域における人材養成の更なる強化に貢献し、動物衛生・公衆衛生に係る行政・研究機関、民間研究機関において獣医学を先導する高度な研究能力を持つ人材と高度動物臨床医科学分野を先導する人材を養成することを目標とする。また、一般学生に加えて社会人学生を積極的に受け入れることを目指し、行政・研究機関、民間研究機関あるいは臨床現場で既に活躍する獣医師および高度技術者に対して大学院教育を実践し、研究リーダーとして活躍できる高度専門職業能力を有する獣医学博士を養成する。

岩手大学では、共同獣医学専攻を設置するため、新たに獣医学研究科を設置し、その理念・目的は、次のとおりとする。

岩手大学大学院獣医学研究科は、獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を活かして、独創的かつ先駆的な研究を遂行しうる研究者及び社会の多様な方面で指導者として活躍できる高度専門技術者を養成し、獣医学及び科学技術の更なる発展と、東日本のニーズへの対応並びに国際協力への貢献に資するものとする。

本構想は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科構成4大学としても連携しつつ、更なるステップとして、東京農工大学・岩手大学両大学が、共同大学院を設置するものである。これまでも両大学は社会人学生や留学生を受け入れてきたが、両大学が特色とする分野の強化により、研究意欲の高い東日本地域を職場とする社会人や留学生の人材養成需要にこれまで以上に答えることが期待される。

1-3 養成する人材像

東京農工大学及び岩手大学は、それぞれ伴侶動物及び産業動物の高度医療に強みを持ち、獣医衛生科学の分野では、それぞれ国際重要感染症対策及び食の安全を専門とする研究領域を有する。大学院博士課程においてもこれらの両大学の強みを活かすこ

とで、国内外の獣医学領域における動物衛生・公衆衛生及び臨床科学の諸問題を最先端の科学的手法(適切な手法)を用いて網羅的に分析・評価し、動物を分子レベルから個体レベル、さらに、群レベルの視点(獣医学の切り口)で解決することができる次の能力を備えた人材に育て上げ、国際通用性を有し、社会を先導する高度な専門知識と研究能力を備えた人材を養成する。

ディプロマポリシー

国内外の獣医学領域における諸問題を網羅的に分析・評価し、獣医学の切り口で解決できる、様々な動物種を対象とした獣医臨床医科学、動物衛生及び公衆衛生を中心とした専門性の高い獣医衛生科学、又は、これらの分野の基盤となり研究を支える動物基礎医学に関する高度かつ広範な専門知識と研究能力を身に付けた学生に「博士(獣医学)」を授与する。

- 獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材
- 動物衛生及び公衆衛生に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材
- 産業動物及び伴侶動物の獣医療に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材

1-4 入学定員及び人材需要の見通し

これらの人材の修了後の社会的な動向等を踏まえた客観的な根拠に基づく人材需要の見通しについて、これまでの岐阜大学大学院連合獣医学研究科における実績として、過去5年間の平均修了者数は、東京農工大学7.4人、岩手大学4.0人、合計11.4人であり、今後も同規模の需要はあるものと見込まれる。

さらに、民間企業における新たな分野や既存分野の強化に向けて、本共同獣医学専攻修了者の新規採用者数を調査した結果、2大学で12.0人であった。

加えて、留学生が母国で活躍することを国際的な人材需要と考えると、入学予定者数が即ち海外での人材需要となり、特に、岐阜大学大学院連合獣医学研究科への送り出し実績の無い姉妹校から「新たに東京農工大学の組織として獣医学分野の大学院が設置されるなら送り出したい」と希望があり、未送り出し姉妹校に対して、何人の留学生を送り出す見込みかを調査したところ、1年当たり3.3人であった。

本共同獣学専攻において、社会人学生以外の学生数は、東京農工大学6人(日本人学生2人、留学生4人)、岩手大学3人(日本人学生2人、留学生1人)の計9人を想定しており、これまでの実績や新規需要を踏まえ修了後の就職先等の需要は充分確保されている。

以上のことから、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の実績及び新規需要見込みを合計すると、両大学で26.7人となり、国内外において喫緊の課題を解決できる獣医学分

野の博士人材を養成するためには、少なくとも、両大学で合計 15 人の入学定員が必要である。

なお、国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal（研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト）からの提供データ（平成 23～27 年度）では、農学・動物生命科学分野における大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況において、平成 23 年度と 27 年度を比較すると、増加基調にある。

また、動物生命科学以外の分野（実験動物学、基礎医学、基礎生物学 等）においても需要が見込まれることから、獣医学分野の博士人材全体では、今後更なる需要があるものと考えられる。

1-5 連合大学院から共同大学院への展開

1) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科の実績

岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、4 大学 5 連携機関により、学生 1 名当たりに対して、1.3 名の教員が教育・研究に対応するなど、きめ細かい教育実施体制をとっている。

とりわけ、大学院 GP の採択による時代に即した教育課程の改正、科学英語の導入、国際学会や海外研修への旅費支援、5 連携機関での実践実習、海外とのジョイント・ワークショップの開催など、従来の教育内容に加えて、幅広い応用力の育成と国際通用性に配慮した教育プログラムを実施している。

また、留学生を配慮して WEB 上で日本語と英語の切替えが可能な履修システムを新規に導入し、海外で活躍できる研究者及び高度職業人を育成する教育環境を整備している。

さらに、獣医学を基盤に独創的な研究を遂行できる研究者及び獣医学関連の職種で活躍できる高度職業人の育成を目標としており、教育成果や効果の実績として、修了生の 50%以上が大学や国公立及び民間研究所の研究職に就いている。また、学生及び関係者の評価も高く、広く社会の要請に役立っていると考えられる。

このように岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、我が国の獣医学分野の発展に貢献してきたところである。

2) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科が持つ組織上の課題

岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、岐阜大学、東京農工大学、岩手大学及び帯広畜産大学の 4 大学で構成しているため、研究背景の異なる多数の教員によって広い分野の研究に対応することができる半面、それぞれの大学が独自性を発揮し、各大学の将来ビジョンに沿った教育プログラムを博士課程教育に対して組み込み難い一面があ

り、また、それぞれの地域社会に密着した教育研究や研究成果の還元が行いづらいという点がある。また、平成 24 年度から獣医学分野における学士課程の共同教育課程の設置が進み、岐阜大学大学院連合獣医学研究科を構成する大学では、東京農工大学と岩手大学は 2 大学で共同獣医学科を構成しているが、基幹校である岐阜大学は鳥取大学と、帯広畜産大学は北海道大学と、それぞれ共同獣医学科又は共同獣医学課程を岐阜大学大学院連合獣医学研究科の構成大学以外の大学と構成しており、学部教育と大学院教育との間で組織的なねじれが生じている現状にある。文部科学省が招集した「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（平成 26 年 6 月）」においても獣医学に関する教育研究資源の地域偏在を解消するという観点に立ち、地域特性や既存大学の強みや特色を踏まえながら、将来的にはブロックごとに大学院を集約的に整備することや現行の共同獣医学課程の枠組みといわゆる連合大学院の枠組みとの間にずれが存在することを認識しつつ、より効果的かつ効率的な教育実現に向けた自律的な努力を行うべきとの指摘がなされているところである。

3) 再編の理念

前項で述べたとおり、岐阜大学大学院連合獣医学研究科には多数の教員が在籍し、多様な教育内容の提供によって我が国の獣医学の発展に貢献してきた。東京農工大学と岩手大学では、岐阜大学大学院連合獣医学研究科が行ってきた連携教育を東日本地域で深化させるため、首都圏及び東北地域における獣医学教育研究拠点である両大学が連携を強固に組むことを構想した。両大学は、立地した地域において高度な伴侶動物医療及び産業動物医療を提供する社会的使命がある。また、両大学は、口蹄疫などの国際的に重要な感染症の撲滅を目指す国際家畜感染症防疫研究教育センター並びに「食の安全」をはじめとする人類と動物の間に生じる様々な課題の解決を目指す動物医学食品安全教育研究センターを有しており、獣医衛生科学を通じ世界的視野で人及び動物の健康を保ち生態系の健全性を維持する、いわゆる One World – One Health の実現に向けた技術開発が求められているところである。本構想は、東京農工大学と岩手大学のそれぞれの強みを活かして、教育体制を充実させ、我が国及び東日本地域における人材養成ニーズに的確に答えていくことを理念としている。

4) 再編の理由・効果

再編の理念を達成するためには、岐阜大学大学院連合獣医学研究科で培った実績を基盤にして、各大学の強み・特色を最大限に活かし、自ら改善・発展する仕組みを構築する必要がある。それぞれ異なる強み・特色及び機能強化の方向性を有する東京農工大学と岩手大学が連合大学院から共同大学院へ発展的に展開・再編し、各大学の主導の下、それぞれの大学が求められる社会のニーズに応え得る高度獣医博士の人材育成を行うことを目的に「共同獣医学専攻」を設置し、獣医学教育の充実・強化を図る

ものである。このことにより、民間企業におけるトランスレーショナル研究などの新たな人材需要にも対応できるものと考えている。

東京農工大学は、ミッションの再定義による第3期中期計画において「国際社会で指導的な役割を担う高度な専門職業人材及び高い研究能力を有する先導的な人材の育成」、「我が国の産業を支える実践的な研究等の取り組みの一層の推進によるイノベーション創出」を担う大学であると定義されている。

英国の世界大学評価機関の大学ランキング（QS ランキング）2016 の分野別評価において東京農工大学は Agriculture and Forestry Science（農林科学分野）において世界 Top100 内（50-100）にランキングされており、海外からの留学生の認知度が高い。本共同獣医学専攻が東京農工大学に設置されることにより、伴侶動物高度医療や家畜感染症に関する人材育成において、アジアを含めた潜在的な博士研究者養成のニーズを発掘することができ、国外の獣医学研究者の養成に強みを発揮できるものと考えた。

また、岩手大学は、ミッションの再定義による第3期中期計画において「地域再生の課題解決をはじめ地域社会の持続的発展のための課題を中心におきつつグローバルな視点も含めた教育・研究・社会貢献等の活動を展開し、地域に根差して成果を世界に発信する」を担う大学を目指している。岩手大学は、農学分野のミッションの再定義において「東北地域の豊かな資源と風土の下で、食料や木材の生産、自然環境の保全、生物資源の高付加価値化等の生命と生活を支える農学を考究し、農林水産業の振興と地域や社会の発展に資することを目的に教育、研究、社会貢献に取り組んでいる。」ことや、「地域の自治体や団体及び生産者との交流を通じた課題解決プロジェクト、共同獣医学科や林学分野をはじめとする大学間共同の教育システム、食の安全教育プログラム等の特色ある教育を進めており、東北諸県自治体等への農林業関係審議会委員や各種の計画作成業務にも参画している。」等、高等農林専門学校以来の実学を強みにしている。岩手大学として全学的に取り組んでいるこれらの特色を更に伸ばし、東日本大震災からの復興に加えて東北地域においてニーズの高い高収益型農畜産業の構築に寄与する高度な専門職業人材と高い研究能力を有する先導的な人材の養成に強みを発揮できるものと考えた。

両大学では、獣医学教育の充実・強化を目指し、第3期中期計画において、東京農工大学と岩手大学が連携した獣医学分野の共同専攻（博士課程）を設置し、共同で獣医学分野の博士課程の人材育成に取り組むこととしている。

なお、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の所属学生は、制度上は、岐阜大学の学生であるため、東京農工大学又は岩手大学所属が要件となっている教育プログラム（世界展開力強化事業等）に参画することができないが、共同教育課程では、学生はそれぞれの構成大学に籍を置くため、各大学の教育プログラムに自大学生として参画することができる。

また、学部、大学院を通じて共同教育課程とすることによって、一体的かつ接続した教育研究が可能となるとともに、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の学生である東京農工大学及び岩手大学に配置されている学生にとっては、自大学への進学が可能となることによってそれぞれの大学への帰属意識がより高くなるものと考えられる。

さらに、両大学それぞれに位置付けられる大学院となることは、既存学内組織との連携も強まり、大学全体を通じた機能強化に資することも期待される。

5) 今後の連合大学院構成 4大学の協力体制等

岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学を参加大学とした4大学で構成されており、これまで25年間にわたって、獣医学分野の人材養成や学術研究の発展に貢献しており、教育活動の評価は高い。

このため、東京農工大学と岩手大学との共同獣医学専攻の設置により、大学連携の枠組の変更となるが、我が国の獣医学教育改革の最終目的である「国際通用性の獣医学教育」を考慮し、更に大学院教育の発展に資するため、岐阜大学大学院連合獣医学研究科でこれまで培ったノウハウを活かし、4大学での授業連携や学位審査の協力体制の構築など、岐阜大学及び帯広畜産大学との関係性を今後も継続していくこととする。

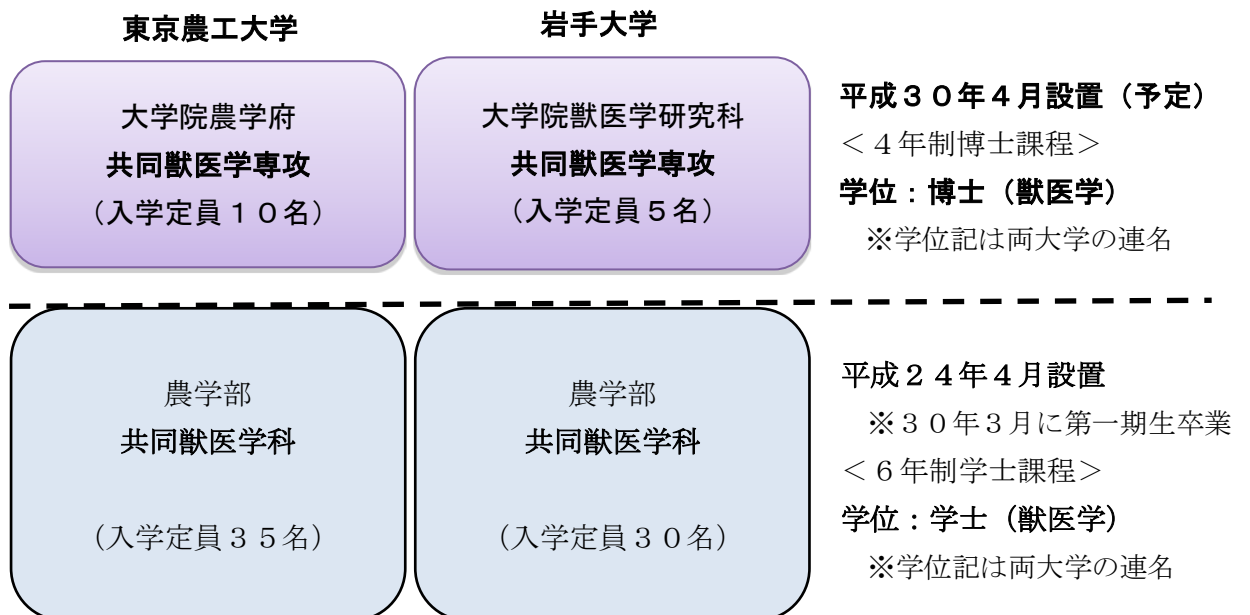
【参考：別紙資料1「連合大学院から共同大学院への展開」】

2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

2-1 研究科・専攻の名称及び理由

東京農工大学及び岩手大学において、主に学士（獣医学）の学位を有する者を対象とした4年制の獣医学を履修する博士課程を設置する。

○設置組織



〈東京農工大学〉

研究科名: 大学院農学府

(Graduate School of Agriculture)

専攻名: 共同獣医学専攻

(Cooperative Division of Veterinary Sciences)

〈岩手大学〉

研究科名: 大学院獣医学研究科

(Graduate School of Veterinary Sciences)

専攻名: 共同獣医学専攻

(Cooperative Division of Veterinary Sciences)

本共同獣医学専攻は、共同獣医学科を基礎としつつ、動物基礎医学講座、獣医衛生科学講座及び獣医臨床医科学講座からなる大学院教育を展開することにより、獣医学分野における高度な専門知識と研究能力を備えた人材を養成することから、専攻名を「共同獣医学専攻」とした。また、英語名称は「Cooperative Division of Veterinary Sciences」が適切であると考えた。

なお、本共同獣医学専攻は、東京農工大学においては、既存の研究科（農学府）に配置し既存専攻との連携を図り、また、岩手大学においては、新研究科に配置し学内の他の研究科との連携を図ることとしている。

2-2 学位の名称及び理由

博士（獣医学） （Doctor of Philosophy）

学位の名称は、動物基礎医学、獣医衛生科学、獣医臨床医科学からなる獣医学に関する教育研究を対象とすることから、博士（獣医学）とした。また、英語名称は、国際的通用性の観点から、「Doctor of Philosophy」が適切であると考えた。

学位記は、共同教育課程の制度に基づくことから、東京農工大学及び岩手大学の両大学の連名によるものとする。

東京農工大学の学生には「東京農工大学大学院農学府及び岩手大学大学院獣医学研究科の共同獣医学専攻の博士課程を修了」、岩手大学の学生には「岩手大学大学院獣医学研究科及び東京農工大学大学院農学府の共同獣医学専攻を修了」した旨の学位記を授与する。

学位授与のプロセスは、標準修業年限である4年以上、あるいは優れた研究業績を上げた者については3年以上在学し、授業科目の中から34単位以上を修得、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文及び論文の内容や専門分野に関する最終試験に合格することを要件とする。これらの修了要件を満たすことにより博士（獣医学）の学位を授与する。

3. 教育課程の編成の考え方及び特色

3-1. 教育課程の編成の考え方

両大学農学部を設置する共同獣医学科の教育理念において重点的に取り組んでいる伴侶動物及び産業動物の高度医療分野並びに動物衛生・公衆衛生分野について、大学院博士課程レベルでの更なる高度化を目指し、我が国のみならず世界的に獣医学を牽引する研究リーダーを育成するための教育課程とする。

この教育課程は、学部における共同獣医学科の講座体制である「基礎獣医学講座」、「病態獣医学講座」、「応用獣医学講座」、「臨床獣医学講座」の4講座に接続して、大学院における共同獣医学専攻の講座体制を「動物基礎医学講座」、「獣医衛生科学講座」、「獣医臨床医科学講座」の3講座に編成して展開するものである。

教育課程には、岐阜大学大学院連合獣医学研究科で培ってきたノウハウ（合同の合宿や授業、学際科目の開講等）を活かし、加えて両大学の強みを組み込んだ5つの科目群（共通基盤科目、講座科目、研究指導科目、獣医学学際科目、先端実践科目）を設け、体系的な科目履修が可能となるよう構成を整える。また、両大学の学生は東京農工大学農学部附属施設として設置されている国際家畜感染症防疫研究教育センター及び動物医療センター、並びに岩手大学農学部附属施設として設置されている動物医学食品安全教育研究センター及び動物病院が提供する最先端の実験機器を活用できる体制とし、これら4つのセンターが学生の研究活動を支援する。さらに、これらセンターを基軸とした両大学の強みを特徴付ける講義を獣医学学際科目に開講（国際感染症防疫学、先進動物医療学、食品衛生管理学、動物と人の共存学）し、獣医療分野並びに動物衛生・公衆衛生分野の高度専門知識を有する人材育成をサポートする。

両大学の教員が同じ領域に開講する各分野に関連した講義、演習科目を通じて、更に専門性の高い授業を行う。先端実践科目は両大学の立地環境を活かして国や地方の研究機関並びに海外の大学等と連携協力をする。これらの科目を体系的に履修する研究指導体制を充実し、学生が履修する専門分野の基礎的素養の涵養を図り、さらに、自らの研究の社会的意義付けを意識させる内容とする。また、授業形態は、講義（対面講義、遠隔講義、集中合同講義、オムニバス方式）及び、演習（ゼミ方式、集中合同演習）とする。これらは、研究遂行の過程で培う素養とこれらの科目を有機的に結び付けるものとし、更に高いレベルでの研究及び博士論文作成が行えるよう、両大学の教員が連携し、学生の自立的な研究活動を多面的にサポートし得る体制とする。

【参考：別紙資料2「共同獣医学科と共同獣医学専攻における教育の接続性」】

<カリキュラムポリシー>

共同獣医学専攻では、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高

度獣医療の提供、人類と動物の健康、食の安全、並びに先進的な研究の発展に貢献できる国際的な人材を育成し、我が国のみならず世界的に獣医学を牽引する研究リーダーを育成するための教育カリキュラムを編成する。

- 研究者としての基礎的な素養や研究倫理、コミュニケーション能力を涵養するため、共通基盤科目を設ける。
- 高度な獣医学を身に付けることを目的に、講座科目（講義）を設ける。
- 研究遂行上必須となる専門性の高い知識や実践的研究手技等の研究能力を培うことを目的に、研究指導科目を設ける。
- 獣医学と関連する学問領域にも目を向け広い視野を持った研究能力を身に付けるため、獣医学学際科目を設ける。
- 自ら培った研究能力を社会に還元する方法を学ぶため、外部機関における先端実践科目を設ける。

なお、学部からの進学者及び卒業後実務経験のある社会人獣医師（大学院設置基準第14条特例を実施。「9」参照。）を入学者として想定したカリキュラムとする。取得単位数は34単位以上とし、うち10単位以上は相手大学の単位とする。

教育課程では基礎的な研究者素養を教授する共通基盤科目の履修から最終年度に提出する博士論文の作成まで、研究者として身に付けるべきスキルを段階的に修得し得る履修プログラムを提供する。

履修科目表

区 分	共通基盤科目	講座科目	研究指導科目	獣医学学際科目	先端実践科目	合計
取得単位数 (相手大学での 取得単位数)	12 (6)	6 (2)	12 (2)	4以上		34 (10) 以上

3-2. 教育課程の特色

<共通基盤科目>

研究者としての基礎的な素養や研究倫理、コミュニケーション能力、国際的に活躍できる語学力を涵養するため共通基盤科目を設ける。

「共通基盤科目（計12単位）」として、両大学の共同開講体制により、「獣医学特別講

義A)、「獣医学特別講義B)」、「研究倫理 (東京農工大学)」、「研究倫理 (岩手大学)」、「研究デザイン演習」、「研究プレゼンテーション演習」、「科学英語」を設け、1～2年次における必修科目として位置付ける。これらの科目の履修により、獣医学的な問題解決方法の基本、研究者として身に付けるべき研究倫理の涵養、目的を達成するための実験プランの設計法を学ぶ。さらに、社会への研究成果の発信手法及び国際悪性伝染病対策などの国際的な社会的課題にも対応し得る国際通用性を備えた研究リーダーとして身に付けるべき英語能力を修得する。社会人学生の受講を考慮し、これらの科目は集中講義と遠隔講義システム等のメディアを併用して開講し、相手大学科目受講時における学生の移動負担の軽減を図る。

＜講座科目及び研究指導科目＞

幅広く高度な獣医学を身に付け、研究遂行上必須となる専門性の高い研究能力を培うことを目的に講座科目及び研究指導科目を設ける。

「講座科目」及び「研究指導科目」では、各論に当たる科目として3講座（動物基礎医学、獣医衛生科学、獣医臨床医科学）に対応した科目（各特論A、特論B、特論C、及び特別演習A、特別演習B、特別演習C）を設ける。これらの科目の履修を通じて、学生が研究推進のための高度専門知識を身に付け、多面的な視点からなされた指摘や意見を基に研究を発展的にブラッシュアップできるようサポートする。これらにより、研究遂行上必須となる専門性の高い知識やキャリアデザインに応じた実践的な研究手技・方法を学び、それらを基盤としたイノベーション能力を培うことを可能とする。このため、特論は1～2年次の履修を基本とし、特別演習のうち特別演習Aは1～4年次の通年、特別演習B又はCは1～2年次に履修する。なお、特論A及び特別演習Aは主指導教員の開講科目（計10単位）、特論B及び特別演習Bは副指導教員（自大学）の開講科目（計4単位）、特論C及び特別演習Cは副指導教員（相手大学）の開講科目（計4単位）の履修を必修とする。

＜獣医学学際科目及び先端実践科目＞

幅広い視野を持った研究能力や国際的に活躍するための実践的な能力を育むため、獣医学学際科目及び先端実践科目を設ける。

「獣医学学際科目」では最新の研究動向を講義するオムニバス科目（学際領域特別講義）及び各大学のセンターの特色を活かした講義科目（国際感染症防疫学、先進動物医療学、食品衛生管理学、動物と人の共存学）より構成する。これらの科目の受講により、本共同獣医学専攻の強みである獣医学領域と関連する分野の最新の研究知見を学ぶことが可能となる。

「先端実践科目」では、連携機関等による学外演習を提供し、学生は国内及び海外の豊富なフィールドにおいて演習を行うことを可能とする。これらフィールド演習の

履修により、教育課程で身に付けた能力と現場での社会的ニーズをリンクさせ、自ら培った研究能力を修了後にどのように社会還元できるかをイメージさせる。また、海外演習A（1単位）及び海外演習B（2単位）において海外での研究活動やインターンシップを単位化し、積極的に海外に目を向け、国際的な研究感覚を身に付けさせることを後押しする。1～4年次における履修を基本とし、各科目群からそれぞれ1科目1～2単位を選択必須とする。

なお、本共同獣医学専攻においては、学部教育との接続性を考慮し、成績が優秀で大学院への進学意欲のある学部学生に対し、共通基盤科目における一部の授業科目の履修を認めて基盤研究スキルを前倒しして身に付けさせ、研究能力の修得を加速させることとしている。

4. 教員組織の編成の考え方及び特色

4-1 教員組織の編成と基本的考え方及び特色

1) 教員組織の編成

共同獣医学専攻の教育課程を担当する教員組織は、各専任教員のほか、国際家畜感染症防疫研究教育センター（農工）、動物医療センター（農工）、動物医学食品安全教育研究センター（岩手）及び動物病院（岩手）の教員も大学院の専任教員として参画する。また、東京農工大学及び岩手大学が連携する機関から客員教員として教員組織に加わる。専任教員については、平成 30 年 4 月の開設時において、東京農工大学 29 名、岩手大学 23 名（合計 52 名）にて編成する。客員教員は東京農工大学 2 名、岩手大学 1 名（合計 3 名）を予定し、各大学ともに研究・教育指導に十分な教員数を確保している。

岩手大学及び東京農工大学の共同獣医学科は、東京農工大学、岩手大学ともに基礎獣医学講座、病態獣医学講座、応用獣医学講座、臨床獣医学講座の 4 講座により組織されているが、本共同獣医学専攻ではこれを再編し、「動物基礎医学講座」（教員数 18 名）、「獣医衛生科学講座」（教員 18 名）、「獣医臨床医科学講座」（教員数 19 名）の 3 講座を置く。

さらに、各講座には 2 つの教育・研究分野を置く。「動物基礎医学講座」には形態機能学及び機能制御学に関する教育・研究分野を置き、共同獣医学科における基礎獣医学講座及び病態獣医学講座を中心として組織する。「獣医衛生科学講座」には動物衛生学及び獣医公衆衛生学に関する教育・研究分野を置き、共同獣医学科における応用獣医学講座の教員を専門により配置する。また、「獣医臨床医科学講座」は産業動物臨床医科学及び伴侶動物臨床医科学に関する教育・研究分野とし、共同獣医学科における臨床獣医学講座から組織する。

【参考：別紙資料 3 「共同獣医学専攻 講座体制」】

共同獣医学専攻の講座編成と予定教員数(開設時)

講 座	教育・研究分野	東京農工大学		岩手大学		合 計
		大学	連携	大学	連携	
動物基礎医学	形態機能学	4		5		18
	機能制御学	5		4		
獣医衛生科学	動物衛生学	7		4	1	18
	獣医公衆衛生学	3	2	1		
獣医臨床医科学	産業動物臨床医科学	1		3		19
	伴侶動物臨床医科学	9		6		
合 計		29	2	23	1	55

以上のように、共同獣医学科の講座編成を基盤として構築した組織体制により3講座6教育・研究分野を構築することにより、共同獣医学科からの教育の接続性を担保した組織を構築する。

これまでの岐阜大学大学院連合獣医学研究科の教育システムの最大のメリットは、各大学の教員を集約して多様な教員の授業や研究指導を提供することであった。連合獣医から共同獣医としての専攻設置に伴って、大学連携の枠組が変更となるが、岐阜大学や帯広畜産大学との授業連携や学位審査の協力体制を維持するとともに、新たな連携により地域に根ざした各大学の特色が更に発揮でき、多様な人材（ニーズ）に対応できる教育システムを構築することが可能になることから、獣医学分野の教育の質は確保できるものとする。さらに、自大学の学生となることから、東京農工大学及び岩手大学が持つ独自の教育プログラムに参加させることも可能となり、獣医学博士課程教育においても各大学の特徴的な教育を実現することができる。

なお、共同獣医学専攻では、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の4講座制の実績を踏まえ、より東京農工大学と岩手大学の特徴を活かした3講座とするが、獣医公衆衛生学分野においては、連携機関と協力することにより、また、産業動物臨床医科学分野においては、関連する動物基礎医学講座及び獣医衛生科学講座のサポートにより、教育体制の充実を図り、高い教育水準を担保するものとする。

2) 教員組織の基本的な考え方

共同獣医学専攻では、①獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、②動物衛生及び公衆衛生に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、③産業動物及び伴侶動物の獣医療に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材を育成することとしている。

3講座体制は、これら3つの人材養成に対応するものであり、動物基礎医学講座では、獣医衛生科学及び科学の基盤となる基礎獣医学に関する高度かつ最新の教育研究指導を行う。獣医衛生科学講座では、動物衛生学及び獣医公衆衛生学に関する高度かつ実践的な最新の教育研究指導を行う。獣医臨床医科学講座では、診断治療に関する高度かつ実践的な最新の教育研究指導を行う。

なお、各講座とも2つの教育・研究分野を置き、下表に示す内容の教育と研究指導に当たるものとする。

各講座の教育研究指導内容

講座名	教育・研究分野	教育研究指導内容
動物基礎医学	形態機能学	動物の解剖・生理に関する高度基礎獣医学的研究
	機能制御学	動物の病態に関する高度基礎獣医学的研究
獣医衛生科学	動物衛生学	家畜感染症と家畜衛生に関する高度応用獣医学的研究
	獣医公衆衛生学	獣医公衆衛生学に関する高度応用獣医学的研究
獣医臨床医科学	産業動物臨床医科学	産業動物における高度動物臨床医科学的研究
	伴侶動物臨床医科学	伴侶動物における高度動物臨床医科学的研究

本共同獣医学専攻では、連携機関の参加により教育体制を更に強固なものとする。東京農工大学では国立感染症研究所の客員教員により、岩手大学では農業・食品産業技術総合研究機構の客員教員により獣医衛生科学講座の教育研究機能の強化を行う。連携機関の客員教員は学生の研究指導のほか、実践的な教育として先端実践科目における実地教育を担当する。

【参考：別紙資料4「連携機関との協定書」】

3) 教員組織の特色

本共同獣医学専攻では、岩手大学共同獣医学科と東京農工大学共同獣医学科を基盤として、両大学の持つ4つの附属施設と連携機関の参加によって、内容、人員共にバランスの取れた3講座体制を実現している。

動物基礎医学講座では、学部での基礎獣医学講座と病態獣医学講座を有機的に結び付け、基本的な機能形態から病態までをカバーしており、特に産業動物臨床分野、あるいは公衆衛生及び家畜衛生分野を基盤とした研究分野を専門とする多数の教員から構成されていることから、共同獣医学専攻としてまさに獣医衛生科学及び獣医臨床医科学を基礎として支えることとなる。

獣医衛生科学講座では、東北地域フィールドを中心として、国際家畜感染症防疫研究教育センター（農工）、動物医学食品安全教育研究センター（岩手）及び諸連携機関の協力を得て家畜衛生や公衆衛生の諸問題を研究する体制を整えている。両大学の所属する専任教員に加え、連携機関より同分野を専門とする教員が参画することにより東日本全体で同分野に取り組む仕組みを構築し、教育研究体制を充実させる。

獣医臨床医科学講座では、動物医療センター（農工）、動物病院（岩手）を組織に取

り入れて、首都圏及び東北地域の臨床現場を強く意識した教育研究体制を構築している。特に産業動物臨床医科学分野に関しては、本共同獣医学専攻では動物基礎医学講座並びに獣医衛生科学講座に産業動物を通じた公衆衛生、家畜衛生に関連した研究を実践する教員が多く存在し、講座間の密接な連携により教育研究を遂行する。

また、産業動物臨床医科学分野と伴侶動物臨床医科学分野の教員との研究協力連携により従来の生産性を重視した産業動物臨床に加えて、伴侶動物において実践されている治療を目指した高度獣医療の産業動物への応用が取り組まれており、獣医臨床医科学講座としてあらゆる動物種に対する高度獣医療の実践と研究を遂行する。

したがって 本共同獣医学専攻では上記特色を活かした多方面からの教育研究指導が可能となるため教育研究水準の向上が期待される。

4-2 教員の年齢構成

本共同獣医学専攻における教育課程を担当する専任教員 55 名の内訳は、教授 25 名、准教授 20 名、講師 5 名、助教が 5 名となっている。

専任教員の年齢構成については、完成年度（平成 33 年度）3 月末時点で、30 歳代が 2 名、40 歳代が 17 名、50 歳代が 19 名、60 歳代が 14 名となっており、教育研究水準の維持向上及び活性化に相応しい、バランスの取れた構成となっている。

なお、東京農工大学及び岩手大学における定年年齢は、両大学とも 65 歳である。完成年度前に定年退職（3 名）となる専任教員に所属する学生の研究指導については、当該退職教員と同じ教育・研究分野に所属する他の専任教員が当該学生の研究指導を引き継ぐことにより、修了までの指導を行う。

【参考：別紙資料 5 「就業規則」】

5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

5-1 教育プロセスの明確化

本共同獣医学専攻では、基礎獣医学と病態獣医学を対象とした獣医学の基盤を担う「動物基礎医学」、動物の群管理を中心とした「獣医衛生科学」と個体診療に重きを置いた「獣医臨床医科学」の3講座を基盤とし、共同獣医学科の実務教育を中心とする学部教育との接続により、より深化し、先端医療を担う人材、すなわち、「我が国のみならず世界的に獣医学を牽引する研究リーダーの育成」を目指している。そのため、以下の教育方法、履修指導、研究指導、修了要件、学位論文の審査体制及び公表方法等を設定、構築する。

また、遠隔地にある両大学による教育の質を担保し、更に高めるため、学部教育（共同獣医学科）で取り入れている遠隔講義システムを用いたメディアによる講義も採用する。また、履修指導及び研究指導においては、両大学の教員が連携し、主大学の主指導教員のほか、副指導教員を両大学から各1名選任して3人で指導に当たる体制を確立し、個人毎にきめ細やかな指導を行う。

特に、成績評価基準については、各授業科目毎のシラバスにおいて明示することとしている。

なお、在学期間に関しては大学院設置基準に基づき、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとし、標準修業年限の4年未満での修了も可能とする。また、本共同獣医学専攻は、獣医療系の職場や家畜衛生・公衆衛生行政等の職場などで経験を積む社会人についても積極的に受け入れることとしているため、大学院設置基準に基づき、教育方法の特例（いわゆる14条特例）を実施する。

5-2 授業の方法・単位

1) 教育課程

学生は、共同獣医学専攻の教育課程において、質の担保及び専門性をより深化させるため大学院の修了要件30単位のところ34単位以上を修得し、加えて学位論文を作成した上で、最終審査に合格することによって、博士（獣医学）の学位を授与される。なお、34単位のうち、10単位以上は相手大学の単位とする。

必修科目群として、共通基盤科目、講座科目、研究指導科目を、選択科目群として獣医学学際科目、先端実践科目を配当する。修了要件単位は必修科目30単位、選択科目4単位以上とし、選択科目は獣医学学際科目から2単位以上、かつ、先端実践科目から2単位以上を履修しなければならない。

共同獣医学専攻 修了要件単位

区 分		科目数	単 位 数		
			自大学	相手大学	計
必修科目	共通基盤科目	7	6	6	12
	講座科目	3	2	2	6
	特論 A <主指導教員開講>				
	特論 B <第 1 副指導教員開講>				
	特論 C <第 2 副指導教員開講>	3	8	2	12
	研究指導科目				
特別演習 A <主指導教員開講>					
特別演習 B <第 1 副指導教員開講>	1-2	4*	4		
特別演習 C <第 2 副指導教員開講>					
選択科目	獣医学学際科目	1-2	4*		4
	先端実践科目	1-2			
合 計		15-17	20-24	10-14	34

*選択科目は、獣医学学際科目から2単位以上、かつ、先端実践科目から2単位以上、合計4単位以上を履修しなければならない。

(i) 共通基盤科目

共通基盤科目は専門に関係なく獣医学研究の基本を学ぶ講義科目群とし、必修科目とする。「獣医学基盤講義A」、「獣医学基盤講義B」、「研究デザイン演習」、「研究プレゼンテーション演習」及び「科学英語」は2単位で合同開講とする。また、「研究倫理（東京農工大学）」、「研究倫理（岩手大学）」は1単位で各大学の開講とする。これらの講義の習得により、博士課程の意味、最先端の科学的解析手法について理解を深めるとともに、国際的に通用する基本的なスキルを身に付ける。合計12単位で相手大学の単位は6単位となる。

○「獣医学基盤講義A」は、研究の基礎を教育するための講義とし、1年時に合同集中

講義とメディアを用いた講義の組合せにより行う。内容は、研究の基礎を教育するための講義とし、博士課程の意義を理解し説明できること、最先端の獣医学研究と最先端の科学的解析手法を理解し、獣医学的な問題解決方法の基本について説明できることを目標とする。

- 「獣医学基盤講義 B」は、研究の発展を教育するための講義とし、2年時に合同集中講義とメディアを用いた講義の組合せにより行う。獣医学研究において、研究の発展を教育するための講義とする。研究成果の考え方、研究経費、知的財産、産官学研究連携等について理解し、説明できることを到達目標とする。
- 「研究デザイン演習」は、研究計画発表の準備と実践により、基本的な研究プレゼンテーションの技法を習得することを目標とし、学生自身の博士課程における研究計画を主題として、日本語と英語による発表要旨の作成、発表ポスターの作成、口頭発表資料の作成を行い、実際に発表を実践させる。演習は合同で実施し、研究計画の発表に対しては、主指導教員及び副指導教員による事前指導を行う。また、相手大学での指導においては、教員移動、学生移動、遠隔講義システムの利用等の開講方法で行う。
- 「研究プレゼンテーション演習」は、研究計画発表の準備と実践により、基本的な研究プレゼンテーションの技法を習得することを目標とし、学生自身の博士課程における研究における進捗状況発表を主題とし、日本語と英語による発表要旨の作成、発表ポスターの作成、口頭発表資料の作成を行い、実際に発表を実践させる。演習は合同で実施し、研究進捗状況の発表に対して主指導教員及び副指導教員による事前指導を行う。事前指導では、データに対する評価と今後の研究方針について話し合う。また、相手大学での指導においては、教員移動、学生移動、遠隔講義システムの利用等の開講方法で行う。
- 「研究倫理（東京農工大学）」、「研究倫理（岩手大学）」は、各大学の強みを活かし、東京農工大学及び岩手大学がそれぞれ「コンプライアンスと伴侶動物」及び「動物福祉と産業動物」に関する講義を行う。「研究倫理（東京農工大学）」と「研究倫理（岩手大学）」を隔年交互に開講し、集中講義で行う。
- 「科学英語」は、国際的な研究活動の基盤的スキルとして英語を使う多くの機会を設け、各自の研究に関する英文レポート作成や、英語で研究者、科学者とのより円滑で効率的なコミュニケーションを可能にすることを目的とし、研究に際して必要な論文講読（リーディング）、論文等における英作文（ライティング）、英語による学会等での発表（プレゼンテーション）の技法の演習を合同集中講義により行う。

(ii) 講座科目

講座科目は指導教員が有する専門的知識を講義科目群とし、必修科目とする（自大学4単位、相手大学2単位）。講座科目では、指導教員の専門の研究分野について、ゼ

ミナール形式で討議を行い、指導教員の研究分野について一定の広がりとし、深さを持つ知識と技術を教授する。「動物基礎医学特論 A」、「動物基礎医学特論 B」、「動物基礎医学特論 C」、「獣医衛生科学特論 A」、「獣医衛生科学特論 B」、「獣医衛生科学特論 C」、「獣医臨床医科学特論 A」、「獣医臨床医科学特論 B」、「獣医臨床医科学特論 C」を配当する。特論 A 及び特論 B は 1 年次後期、特論 C は 2 年次後期に開講する。対面講義あるいはマルチメディアを用いた講義によって実施する。正式科目名は科目名の最後に括弧書きで開講大学を示す（例：「動物基礎医学特論 A（岩手大学）」）。

- 「動物基礎医学特論 A」、「獣医衛生科学特論 A」又は「獣医臨床医科学特論 A」は、主指導教員が担当し、学生の研究テーマに合わせて主指導教員の専門的知識を講義する科目とする。単位数は 2 単位とする。
- 「動物基礎医学特論 B」、「獣医衛生科学特論 B」又は「獣医臨床医科学特論 B」は、第 1 副指導教員（自大学）が担当し、学生の研究テーマに合わせて第 1 副指導教員の専門的知識を講義する科目とする。単位数は 2 単位とする。
- 「動物基礎医学特論 C」、「獣医衛生科学特論 C」又は「獣医臨床医科学特論 C」は、第 2 副指導教員（相手大学）が担当し、学生の研究テーマと間接的に関係する第 2 副指導教員の専門的知識を講義する科目とする。単位数は 2 単位とする。

(iii) 研究指導科目

研究指導科目は実際の研究指導を目的とした演習科目とし、必修科目とする（自大学 10 単位、相手大学 2 単位）。「動物基礎医学特別演習 A」、「動物基礎医学特別演習 B」、「動物基礎医学特別演習 C」、「獣医衛生科学特別演習 A」、「獣医衛生科学特別演習 B」、「獣医衛生科学特別演習 C」、「獣医臨床医科学特別演習 A」、「獣医臨床医科学特別演習 B」、「獣医臨床医科学特別演習 C」を配当し、指導教員の所属講座の開講する科目を履修する。なお、正式科目名は講義科目と同様、科目名の最後に括弧書きで開講大学を示す（例：「獣医衛生科学特別演習 B（東京農工大学）」）。

- 「動物基礎医学特別演習 A」、「獣医衛生科学特別演習 A」又は「獣医臨床医科学特別演習 A」は、主指導教員が履修者の研究内容について指導を行い、期間内に博士論文が完成出来るように研究指導を行う。単位数は 8 単位とし、1～4 年次の通年履修させる。この科目では研究室での活動（セミナー、研究指導）を中心に研究教育活動を単位化する。
- 「動物基礎医学特別演習 B」、「獣医衛生科学特別演習 B」又は「獣医臨床医科学特別演習 B」は、第 1 副指導教員（自大学）が担当する科目とする。単位数は 2 単位とし、1 年次に履修する。「動物基礎医学特別演習 A」、「獣医衛生科学特別演習 A」又は「獣医臨床医科学特別演習 A」と同様に、研究室での活動を中心に研究教育活動を単位化

する。

- 「動物基礎医学特別演習 C」、「獣医衛生科学特別演習 C」又は「獣医臨床医科学特別演習 C」は、第2副指導教員（相手大学）が担当する科目とする。単位数は2単位とし、2年次に履修する。この科目では学生を相手大学の第2副指導教員に赴かせて研究指導を行うとともに、マルチメディアを用いた研究指導を実施する。

(iv) 獣医学学際科目

獣医学学際科目は講義科目とし、最新の研究動向を講義するオムニバス科目及び各大学のセンターを基軸とした東京農工大学及び岩手大学の強みを特徴付ける講義群とする。2単位以上を選択必修とし、その他の科目は自由に選択できる。

- 「学際領域特別講義」は、獣医学領域における最新のトピックスを中心とした研究内容を学習し、最新の幅広い研究知識を習得する。共同開講のオムニバス科目とし、両大学の教員及びゲストスピーカーが対面あるいはメディアを用いて講義を行う。
- 「国際感染症防疫学」は、東京農工大学開講科目とし、同大の国際家畜感染症防疫研究教育センター所属教員を中心とし、外部講師の協力により内容を構成する。
- 「先進動物医療学」は、東京農工大学開講科目とし、同大の動物医療センター所属教員を中心とし、学内教員の協力により内容を構成する。
- 「食品衛生管理学」は、岩手大学開講科目とし、同大の動物医学食品安全教育研究センター所属教員を中心とし、他学部教員等の協力により内容を構成する。
- 「動物と人の共存学」は、岩手大学開講科目とし、同大の動物病院所属教員を中心とし、他学部教員等の協力により内容を構成する。
- 相手大学への配信は、共同獣医学科で整備済みの遠隔講義システムを用いる。

(v) 先端実践科目

先端実践科目は演習科目とし、連携機関等による実践的な演習及び国内・海外での研究活動に単位を与える科目群とする。2単位以上を選択必修とし、その他の科目は自由に選択できる。

- 「動物基礎医学学外演習」、「獣医衛生科学学外演習」、「獣医臨床医科学学外演習」では、連携機関等における技術習得を中心とした研修を行う。単位数は1単位とする。正式科目名は科目名の最後に括弧書きで連携機関を示す（例：「獣医衛生科学学外演習（農研機構）」）。
- 「獣医学特別演習」は、外部講師による講演の聴講、他大学等の講演会・シンポジウム等への学生派遣等を単位化する。単位数は1単位とする。なお、正式科目名は、科目名の最後に括弧書きで単位認定大学を示す（例：「獣医学特別演習（東京農工大

学)]]。

例) 日本獣医学会におけるシンポジウム発表・参加

日本獣医師会におけるワークショップ企画・参加

- 「海外演習 A」及び「海外演習 B」では、学生の海外での活動を単位化する。学会発表等の短期（1週間程度）のものは海外演習 A（1単位）とし、海外大学等での研究活動で2週間を超える場合は海外演習 B（2単位）とする。なお、正式科目名は、科目名の最後に括弧書きで単位認定大学を示す（例：「海外演習 A（岩手大学）」）。

例) 海外演習 A: 国際獣医学学会 (International Conference on Veterinary Science)

発表・参加

世界牛病学会 (World Association for Buiatrics) 発表・参加

海外演習 B: JASSO 海外留学支援制度協定派遣

トビタテ留学 JAPAN

OIE Global Animal Health conference 参加

2) 授業の方法について

授業科目は、両大学の教員・学生を集めて行う集中講義、学生を相手大学に派遣する集中講義、連携機関等への学生派遣による集中講義等の多様な対面講義の方法を取り入れる。また、本共同獣医学専攻においては、東京と岩手という遠隔地にあることから、一部の講義を既に共同獣医学科で整備済みである遠隔講義システムを利用してメディアを用いた講義を実施する。メディア講義により、学生の授業科目等の履修において過度な負担の生じないように配慮している。また、授業期間は共同獣医学科の学年歴に合わせて行う。

なお、やむを得ない事由により授業科目を開設できなくなった場合には、相手大学の協力を得るとともに、非常勤講師開講、次年度開講等の処置を行う。

5-3 履修指導・研究指導・修了要件等

1) 履修指導

共同獣医学専攻では、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類と動物の健康、食の安全、並びに先進的な研究の発展に貢献できる国際的な人材を育成し、我が国のみならず世界的に獣医学を牽引する研究リーダーを育成するための教育カリキュラムを編成している。具体的には、①獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、②動物衛生及び公衆衛生に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、③産業動物及び伴侶動物の獣医療に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、を養成することを目標としている。目標達成のために、専門に関係なく研究者としての基本事項を教育した

上で、所属講座に関係なく個々の学生の専門に合わせた講義・演習をアラカルトで履修できるようにしている。

そこで、育成すべき人材を見据え、学生が持つ学修実績や経験等のバックグラウンドと学生自らが描くキャリアデザインに基づき、定められた教育課程において適切な科目を選択・履修できるよう、教員によるきめ細やかな履修指導を行う。そのため、学生と研究指導教員等により随時意見交換を行う。

以下の履修モデルに示すように、獣医学分野における新たなニーズとして、社会では、1) グローバル社会に対応できる国際感覚と語学力、2) コミュニケーション能力、3) イノベーションの実践に向けリーダーシップを発揮できる能力などの人材が特に求められており、とりわけ、本構想では、多様な人材の育成を行うこととなるが、これまでと同様、学部卒業後に進学した学生は、修了後、次世代の大学教員や公的・民間研究機関の研究者として社会的需要に応えることができる。一方、社会人学生及び留学生は、修了後、それぞれ自らの勤務先及び母国の教育研究機関に戻り、高度専門職業能力を有する研究リーダーとしての活躍が期待できる。

【参考：別紙資料6「履修モデル」】

(i) 獣医系大学を卒業後、東京農工大学に進学する学生の場合

①「基礎獣医学」を基盤とした研究能力を持つ研究者、飼料会社等の民間会社の研究者を目指す学生（合計34単位：所属大学23単位、相手大学11単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として東京農工大学で生殖内分泌学、動物代謝機能学を岩手大学で分子細胞生理学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として学際領域特別講義を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医学特別演習と海外演習Aを履修する。学位論文は「ウマ生殖現象の内分泌学的調節機構に関する研究」の題目で作成する。

②「衛生科学」分野の研究・教育を行う出身国大学教員・国立研究機関研究員を目指す留学生（合計34単位：所属大学24単位、相手大学10単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として東京農工大学で動物感染症学、病原感染因子学を岩手大学で動物寄生虫病学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履

修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として国際感染症防疫学及び食品衛生管理学を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医衛生科学学外演習（農研機構）と海外演習Aを履修する。学位論文は「野生動物における未知ウイルスの探索に関する研究」の題目で作成する。

③「高度獣医療」を基盤とした臨床研究のできる民間動物病院の伴侶動物臨床獣医師を目指す学生（合計34単位：所属大学21単位、相手大学13単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として東京農工大学で比較循環器病学、腫瘍診断治療学を岩手大学で機能再建外科学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として先進動物医療学及び動物と人の共存学を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医臨床科学学外演習（日本中央競馬会）と獣医学特別演習を履修する。学位論文は「イヌの心臓疾患の疫学と臨床病理に関する研究」の題目で作成する。

(ii) 獣医系大学を卒業後、岩手大学に進学する学生の場合

①「基礎獣医学」の研究・教育を行う出身国大学の教員・国立研究機関研究員を目指す留学生（合計34単位：所属大学23単位、相手大学11単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として岩手大学で比較組織学、感覚器形態学を東京農工大学で比較解剖学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として学際領域特別講義を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医学特別演習と海外演習Aを履修する。学位論文は「ブタ気道粘膜の感覚神経終末の形態に関する研究」の題目で作成する。

②「衛生科学」分野でのリーダーとして動物衛生研究所等の国公立研究所の研究員を目指す学生（合計34単位：所属大学23単位、相手大学11単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として岩手大学でウイルス感染症制御学、獣医感染免疫学を東京農工大学で感染病態解析学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として学際領域特

別講義を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医衛生科学学外演習（国立感染研）と海外演習Aを履修する。学位論文は「東北地方におけるウシ白血病の流行要因に関する研究」の題目で作成する。

③「高度獣医療」を基盤とした臨床研究のできる農業共済組合等の産業動物臨床獣医師を目指す学生（合計34単位：所属大学24単位、相手大学10単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として岩手大学で牛代謝病制御学、動物病理診断学を東京農工大学で家畜不妊症防除学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として先進動物医療学及び動物と人の共存学を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医臨床科学学外演習（日本中央競馬会）と獣医学特別演習を履修する。学位論文は「ウシのルーメンアシドーシスの制御に関する研究」の題目で作成する。

2) 研究指導

研究指導については、3名体制とし、本籍大学から1名を主指導教員として配置し、両大学から副指導教員として各1名を配置することにより行う。副指導教員の講座は主指導教員と同一でなくとも良く、入学時に学生が持つ学修実績や経験等のバックグラウンドと、学生自らが描くキャリアデザイン及び履修指導教員の意見も踏まえつつ、主指導教員の指導により入学時に決定する。

授業科目として、研究におけるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成するために、両大学の教員全員により共通基盤科目を開講する。共通基盤科目のうち、1年次に開講される研究デザイン演習では研究計画の発表、2年時に開講される研究プレゼンテーション演習では研究進捗状況の発表を行うが、演習に先立って獣医学基盤講義A及び獣医学基盤講義Bを個別に実施してより効果的な教育を実現する。個別の研究指導科目としては、3名の指導教員が講座科目として特論A、特論B、特論Cによって指導教員の専門的知識を講義するとともに、研究指導科目として特別演習A、特別演習B、特別演習Cを担当し、学生の研究室における実際の研究活動を指導する。3名の指導教員の講座所属は問わないため、学生の希望に合わせた綿密な指導が実現できる。以上のように、学生は自身の研究テーマや研究計画の策定から遂行、論文等の作成に至るまで、共通基盤科目や研究指導科目の履修を通じて綿密な研究指導の下で行うことができる。

【参考：別紙資料7「博士論文作成指導の概要」】

3) 修了要件

学生は、共同獣医学専攻の教育課程において、質の担保及び専門性をより深化させるため大学院の修了要件30単位のところ34 単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することを要件とする。最終審査に合格することによって、博士（獣医学）の学位を授与される。なお、34 単位以上のうち、10 単位以上は相手大学の単位とする。

5-4 学位論文の審査体制及び公表方法等

学位審査については、主査1名、副査4名以上の学位審査委員会を組織し、口頭試問、最終試験を実施する。学位論文の審査結果は東京農工大学農学府及び岩手大学獣医学研究科において合否の議決（参加者の4分の3以上の同意が必要）を行う。学位審査に合格した者は各大学の学長に報告され、博士（獣医学）の学位を与えるとともに学位論文の公表を行う。審査は、審査の公正さ、透明性に配慮して実施する。

1) 学位論文の審査

学位申請は東京農工大学農学府長、岩手大学獣医学研究科長に対して行われ、それぞれ農学府教授会と獣医学研究科教授会は、共同獣医学専攻代議員会に学位審査を付託する。共同獣医学専攻代議員会は、大学院を担当する東京農工大学及び岩手大学の教授又は准教授のうちから5名以上の審査委員（主査1名、副査4名以上）を選出し、学位審査委員会を組織する。ただし、学位審査委員会には必ず両大学の教員を含むものとし、これまでの岐阜大学大学院連合獣医学研究科の経験を踏まえ、岐阜大学及び帯広畜産大学など他大学、他研究所の教員等を2名を上限として副査として選出することができる。審査委員の主査は、原則として主指導教員以外から選出し、審査委員は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認に関する事項を行うものとする。学位審査に当たっては、学生に対し事前に審査基準を以下とおりに明示する。

- (1) 学位論文が、専門分野に新たな知見を加えるもので、国際的にも高い水準を満たしていること。
- (2) 学位論文が、学術的意義、新規性、創造性及び有用性を十分に有していること。
- (3) 上記(2)に掲げるもののほか、学位論文が、別に定める学位授与の方針に基づく観点に合致していること。

2) 最終試験

最終試験は、学位論文の内容を中心として、これに関連する授業科目又は専門分野等について口頭又は筆答（筆記）で行うものとする。学位論文提出による学位申請者

にあつては、学力の確認を行う。学力の確認は、専攻の学術に関し、各大学における大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを学位論文の内容を中心として、口頭又は筆答（筆記）による試問の方法により行うものとする。各大学における大学院博士課程の所定の標準修業年数以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、研究科が定める年限内に学位の授与を受けようとする場合にあっては、学力の確認のための試問を免除する。

3) 審査及び試験の報告

審査委員は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認が終わったときは、学位論文の内容の要旨、審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨を両大学合同の共同獣医学専攻会議に報告するものとする。共同獣医学専攻会議は学位論文の審査結果の確認を行い、東京農工大学農学府教授会及び岩手大学獣医学研究科教授会に上申する。

4) 合否の議決等

学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認の合否の議決は、共同獣医学専攻会議の報告に基づいて東京農工大学農学府教授会及び岩手大学獣医学研究科教授会が行う。議決を行うには、教授会構成員の3分の2以上が出席し、かつ、出席者の4分の3以上の同意を得なければならない。

5) 審査結果の報告

東京農工大学農学府教授会及び岩手大学獣医学研究科教授会において、学位申請者を博士（獣医学）の学位を授与すべき者と議決したときは、農学府長又は獣医学研究科長は、その旨を学長に報告するものとする。

6) 論文要旨等の公表

博士の学位を授与したときは、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用等により公表するものとする。

7) 学位論文の公表

博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与に係る論文の全文又は要約したものをインターネットの利用等により公表するものとする。

5-5 研究の倫理審査体制

研究実施に当たっての倫理審査は、原則として当該研究を実施する各大学の規定に

従い行うこととするが、本共同獣医学専攻に係る倫理審査委員会等への届出内容等については共有管理を行い、東京農工大学と岩手大学の合議体により、研究内容の倫理性について確認を行う体制を構築する。また、学生に対しては必修科目として共通基盤科目「研究倫理（東京農工大学）」、「研究倫理（岩手大学）」を開設し、研究計画書、倫理審査申請書等を作成する前に研究倫理等の重要性を学んだ上で作成に当たる。なお、倫理違反が判明した場合は、直ちに研究を中止するとともに、違反内容を調査し、適切に対処する。

【参考：別紙資料8「倫理審査委員会等規則」】

5-6 海外演習等の実施

1) 海外演習科目に係る学生の費用負担

海外演習科目に係る費用負担については、原則として学生の自己負担とする。ただし、特に海外演習の場合は経済的負担が多くなるため、その負担を軽減するため、関連するプログラム等や、要件に合致する場合は留学奨学金制度等への応募を奨励する。また、各大学における留学や学外実習等の経費を支援する制度等の活用も促す。

2) 海外演習科目における危機管理等

海外演習科目の科目担当教員及び指導教員から、派遣先の国情理解、情報収集の徹底、予防接種等の案内、海外旅行保険への加入、健康診断の受診、健康管理の方法、危機発生時の連絡体制と基本的対処・対応等について情報提供を行い、指示・指導を徹底する。また、有事の際は、学生の所属大学における規程やマニュアル等に従い、即時に危機管理対応を図り、併せて、相手大学、学生の受入機関、在外公館、その他関係機関などの協力を得ながら必要な対応を図る。なお、演習期間が比較的長期にわたる場合は、海外演習科目の科目担当教員及び指導教員と受入機関との間で、演習内容等について事前に調整を十分に行い、必要に応じて現地指導者を特定する。派遣中は学生と科目担当教員及び現地指導者との密な連絡指導を通じ、学生の状況について学業面だけでなく安全・健康状況についても把握し、問題を未然に防ぐ。

5-7 他大学における授業科目の履修等

他大学（共同専攻の両大学を除く）等における授業科目の履修については、学生の所属大学（当該学生が本籍を置く大学）が開講する科目のうち読み替えることができると認められる範囲内に限り、4単位まで認めることができるものとする。

6. 施設・設備等の整備計画

共同獣医学専攻を設置する東京農工大学、岩手大学は、以下のとおり既存の施設・設備等を整備し、共同で利用する。

6-1 校舎等施設の整備計画

1) 教室等

教室、実験・演習室については、既存の講義室等を活用することで対応可能である。また、学生の自習室等については、これまでも多数の大学院生を受け入れていることから、既存の自習室等を活用することで十分に対応可能である。さらに、建物内には有線、無線のLAN環境が整備されており、常時インターネットに接続することができる。

具体的には、各大学において、以下のとおり教室等を備えている。

《東京農工大学》

【農学部本館】

本-21 講義室 (42名)

本-22 講義室 (42名)

【4号館】

429 セミナー室 (18名)

演習室及び実験室 (各研究指導教員の研究室における演習室、実験室を有している。)

学生室 (学生が利用できるスペースを有している。)

【新4号館】

4-32 遠隔授業システム講義室 (82名)

451A ゼミナール室 (8名)

451C ゼミナール室 (8名)

演習室及び実験室 (各研究指導教員の研究室における演習室、実験室を有している。)

学生室 (学生が利用できるスペースを有している。)

【第1講義棟】

1 講-12 講義室 (80名)

1 講-16 講義室 (101名)

1 講-17 講義室 (42名)

1 講-18 講義室 (48名)

1 講-21 講義室 (64名)

- 1 講-24 講義室 (190 名)
- 1 講-22 遠隔授業システム講義室 (80 名)
- 1 講-23 遠隔授業システム講義室 (80 名)
- 1 講-25 遠隔授業システム講義室 (298 名)

【農学部附属動物医療センター】

- セミナー室 (30 名)
- 診察室及び手術室 (学生が実際に患畜の診察や治療を行う施設・設備を有している。)

【福利厚生センター】

学生が利用可能な食堂、売店を有している。また、日本人学生だけではなく留学生を含めた英語によりコミュニケーションできるスペースとして、グローバルカフェを有している。

《岩手大学》

岩手大学は、1 キャンパスに全ての学部・研究科が設置されており、学生センター棟を含め校舎面積は 99,378 m²で、建物延面積は 147,594 m²である。

キャンパス内の教育環境としては、学生センター棟を中心に講義室 96 室、演習室 51 室を備えるとともに、研究室等については、キャンパス全体で 362 室を整備している。

農学部における講義室は以下のとおりである。

【農学部北講義棟】

- 1 番講義室 (50 人)
- 2 番講義室 (104 人)
- 情報処理演習室

【農学部南講義棟】

- 3 番講義室 (50 人)
- 4 番講義室 (104 人)
- 5 番項議室 (50 人)
- 6 番講義室 (75 人)

【総合教育研究棟 (生命系)】

- 7 番講義室 (177 名) 遠隔講義システムを設置
- ぼらんホール (216 人)
- 共用スペース C (50 名) 遠隔講義システムを設置

【農学部 6 号館】

- 102 講義室 (40 人)
- 103 講義室 (54 人)

【動物病院（伴侶動物診療棟）】

臨床実習室3（36名）遠隔講義システムを設置

【動物病院（産業動物診療棟）】

遠隔講義室（44名）遠隔講義システムを設置

視聴覚室

臨床講義室

教員研究室

両大学とも、専任教員は所用の研究室を有し、学生の研究指導を行うには十分なスペースを確保している。

6-2 校舎等施設の整備計画

1) 遠隔講義システムの整備

地理的に遠隔地にある両大学において、効果的な教育を実施するためには、遠隔講義を可能とするシステムの整備が必須である。

東京農工大学と岩手大学は、既に共同獣医学科を設置し遠隔講義を実施しており、共同獣医学専攻が設置されてもカリキュラムの編成上、支障はない。

2) 実習施設等の整備

東京農工大学では、伴侶動物の診察に特化した臨床実習が可能な施設として、「動物医療センター」を有している。西東京地区における二次診療機関として高度獣医療を提供し、一般内科及び外科に加え、循環器科、皮膚科、整形外科、腫瘍科、臨床繁殖科、神経科など多様な専門診察を実施している。

また、近年は、動物から人間に感染する人獣共通感染症が問題になっていることから、「国際家畜感染症防疫研究教育センター」を設置し、獣医伝染病学、獣医衛生学、疫学、家畜衛生経済学、国際感染症制御論を教育研究分野とし、重要伝染病防疫に関する海外研究機関及び大学との共同研究、学生・研修生・留学生の講義・実習教育、口蹄疫など重要伝染病の調査研究などを行っている。

岩手大学では、農学部附属動物病院が産業動物診療棟、伴侶動物診療棟の二棟からなり、東北地区において両分野の高度獣医療を実施している。産業動物診療棟においては、診察室、手術室、入院室に加えて、往診車及び産業動物を搬送するための運搬車も備えており、学内外において診療を実施している。伴侶動物診療棟においては、様々な医療器機、検査器機を整備し、腎泌尿器科、整形外科、腫瘍科、皮膚科などの専門診察を実施している。また、「食の安全」をはじめとする人類と動物の間に生じる様々な課題を解決するための、動物生命科学に関する基礎的並びに応用的研究拠点として「動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）」を設置し、学問分野の枠組みにとらわれず学際的・

横断的な研究・教育を展開することにより、研究・教育の充実に貢献しているとともに、東北地域の行政機関、NOSAI 組織等との共同研究、地域密着型の研究に取り組み、成果の研修・普及と地域との連携強化を進めることにより社会へ成果を還元し、地域貢献を果たしている。

6-3 図書等の資料及び図書館の整備計画

東京農工大学では、府中及び小金井キャンパスに図書館を有している。両図書館では、各キャンパスに配置している学部及び大学院の学術分野における図書及び雑誌類を中心に体系的に収集整備し、利用者に提供している。

蔵書は、府中及び小金井図書館合わせて 約 53 万 8 千冊（うち、外国図書約 17 万 8 千冊）、冊子体の学術雑誌約 1 万 4 千種類、電子ジャーナルは約 7 千種類（うち、外国の電子ジャーナル約 6 千種類）、電子ブック約 7 千種類、視聴覚資料は約 3 千種類を有している。

また、規模は、府中図書館が 364 席（床面積 3,428 m²）、小金井図書館 518 席（床面積 3,479 m²）である。開館時間は平日 8 時 45 分から 21 時までであり、土曜日は 10 時から 17 時（府中図書館）、12 時 30 分から 19 時 30 分（小金井図書館）、日曜日は 13 時から 17 時まで開館している。

岩手大学キャンパス内の図書館には、自然科学、人文科学、社会科学等の各分野の蔵書を備えている。

また、図書館の蔵書（約 93 万冊）のほか、電子ジャーナル（約 6 千種：Elsevier、Wiley、Springer、American Chemical Society、American Physical Society、Oxford University Press、Nature、Science など）と Scopus、SciFinder、Japan Knowledge などのデータベースも整備しており、本学の学生・教職員であれば学内外から 24 時間利用することができる。

図書館の総面積は 9,089 m²であり、679 席の閲覧座席を整備し、学生利用施設としては、12 名ほど利用可能なグループ閲覧室 2 室と 42 名ほど利用可能なプロジェクタ設置のグループ演習室 1 室、ネット利用可能なパソコンを設置している 45 席のマルチメディア閲覧室と 10 席のインターネットコーナーや無線 LAN の設備もあり、図書とデジタル資料の双方を同時利用可能な学修環境を提供している。

2 階サービスカウンター隣に学修支援室（ラーニング・サポート・ルーム）を開設し、外国人学術研究員 1 名（英語学修）と退職教員 5 名（物理、化学、数学専門）で学期中の平日 15 時から 19 時までの間、英語学修指導やリメディアル教育、学修相談を行っている。このエリアには英語のリーディングとリスニング向上を目的とした多

読リーダーを1,668点整備しており、今後も資料整備を行う計画である。これと連動する形で、3階に自由配置が可能な机、椅子（68席）、ホワイトボードや電子黒板を設置したグループ学修エリアがあり、今後もグループ学修エリアの機能強化を予定している。

図書館は学期中の平日は9時から21時まで、休業期間中の平日は9時から17時まで、土日は通年で10時から18時まで開館しており、ICTを利用した本学や他機関の蔵書検索や情報収集及び自修のための空間を提供して、学生の教育研究活動を支援している。

両大学共に、図書館の検索はOPACシステムが稼働しており、全学の所蔵図書の検索が迅速に行うことができる。

さらに、共同獣医学専攻の学生は、所属大学にかかわらず、両大学の図書館の利用が可能である。

7. 基礎となる学部との関係

東京農工大学では、大学院農学府に本共同獣医学専攻を設置し、同大学農学部共同獣医学科の卒業生を受け入れるとともに、首都圏を中心とした行政機関からの社会人学生や留学生の受け入れを行う。

また、既設の農学府の専攻等との教育的連携やプロジェクト研究などの先端的な教育研究活動を有機的に行える体制が構築できる。

岩手大学では、新たに大学院獣医学研究科を設置し、同大学農学部共同獣医学科の卒業生を受け入れるとともに、留学生や獣医師として活躍する社会人を含めた学生の受け入れを行う。

また、大学院連合農学研究科（博士課程）及び総合科学研究科（修士課程（平成 29 年度設置予定））との連携により有機的な教育研究活動を行う。

なお、両大学とも共同獣医学科の上に本共同獣医学専攻が設置され、教員も共同獣医学科と本共同獣医学専攻を兼ねることで、接続した一体的な教育研究が可能となる。

【参考：別紙資料 2 「共同獣医学科と共同獣医学専攻における教育の接続性」】

8. 入学者選抜の概要

共同獣医学専攻は、共同獣医学科を持つ東京農工大学と岩手大学の2校の連携により、それぞれの大学に設置する修業年限4年の大学院博士課程である。なお、両大学はそれぞれ、連携大学院の制度を取り入れ、連携機関として、国立感染症研究所、農業・食品産業技術総合研究機構が加わるによりカリキュラムの更なる充実を図ることとしている。

本共同獣医学専攻では、獣医学及び関連した科学分野の知識・技術を基盤に、我が国のみならず世界各国において生じている動物及び人の健康、公衆衛生並びに環境等に係る諸問題に対し、積極的に対応できる豊かな創造性と高度な研究能力を持ち、幅広い視野と高度な倫理観を有する人材の涵養を目指している。

入学定員は、15名（東京農工大学10名・岩手大学5名）とし、獣医学に関する十分な基礎知識と応用能力を備えた6年制獣医学士課程卒業生（又は外国において学校教育における18年の課程を修了した者）、他分野の修士課程修了者を受け入れる。また、設置の趣旨に照らし、高度専門職業能力を有する研究リーダーを養成するために、行政・研究機関、民間研究機関あるいは臨床現場で既に活躍している獣医師および高度技術者を広く受け入れる。外国人受験生に対しては、情報通信技術を活用した学力検査の実施を可能とする。なお、入学時期は4月及び10月とする。

8-1 共同獣医学専攻が求める学生像（アドミッション・ポリシー）

共同獣医学専攻では、共同獣医学科で掲げた理念を更に深化し、動物基礎医学を基盤とした革新的な発想を持ち、獣医衛生科学分野及び獣医臨床医科学分野を先導する研究リーダーを育成することを目指し、次のような人材を求める。

- 専攻する獣医学及び動物科学に関して十分な基礎学力並びに技術を有している者
- 研究活動に必要な英語力とコミュニケーション能力を備えている者
- 研究課題に積極的に取り組む意欲と探究心を持ち合わせている者
- 幅広い視野に立ち創造性豊かな研究を展開する実行力に満ちた者
- 研究倫理及び獣医倫理に関して深い関心を有している者

8-2 共同獣医学専攻が養成する人材像（ディプロマポリシー）

国内外の獣医学領域における諸問題を網羅的に分析・評価し、獣医学の切り口で解決できる、様々な動物種を対象とした獣医臨床医科学、動物衛生学及び公衆衛生学を中心とした専門性の高い獣医衛生科学、又は、これらの分野の基盤となり研究を支え

る動物基礎医学に関する高度かつ広範な専門知識と研究能力を身に付けた学生に「博士（獣医学）」を授与する。

- 獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材
- 動物衛生及び公衆衛生に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材
- 産業動物及び伴侶動物の獣医療に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材

8-3 出願資格

- 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）、学校教育法施行規則（昭和 22 年 5 月 23 日文科省令第 11 号）、その他関係する法令等及び告示等に基づき、通算 18 年以上の学校教育を受けたものとする。
- 留学生にあつては外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者若しくはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者。外国において、学校教育における 16 年（博士課程においては 18 年）の課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者。学校教育における 16 年（医学部医学科及び農学部又は獣医学部獣医学科にあつては 18 年）の課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者。大学間交流協定、学部間交流協定及びこれらに準ずるものに基づいて特定の授業科目を履修する又は研究することを目的として来日する外国人留学生。

8-4 出願資格認定審査

- 下記に基づく資格により出願したい旨の申し出があつた場合は、その者の出願書類を受理する前に、出願資格の認定のための審査を行い、その結果を出願しようとする者に通知する。
- 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における当該外国の学校教育における 18 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において、位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。文部科学大臣の指定した者。学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院又は他の大学院に入学した者であつて、大学院において、教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。大学院において、個別の入学資格審査により、大学における医学、歯学、又は修業年限 6 年の薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で 24 歳に達した者。また、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に 4 年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であつて、当

該研究科の定める単位を優秀な成績で履修したと認める者。

- 出願資格認定審査は、別に定める申請書類及び面接試験により行う。ただし、提出書類の審査により出願資格を有すると認定された場合は、面接試験は行わない。

8-5 入学者の選抜方法

入学者選抜試験は、東京農工大学及び岩手大学において入学試験委員会を設置し、8月及び1月又は2月に実施する。学生募集を含めて試験は各大学が個別に実施する。

選抜方法の概要

- ・学力検査及び成績証明書の結果を総合して行う。
- ・学力検査：外国語（英語）及び専門科目（専攻分野に係る基礎的な知識）並びに口頭試問（卒業論文又は修士論文等、及び研究計画書の内容を中心に行う）。
なお、外国語（英語）にあつては実用英語検定、TOEIC、TOEFL 等を活用し、別に定める基準を満たす者は英語試験を免除する。
- ・外国人受験者に対しては情報通信技術を活用した学力検査の実施を可能とする。

9. 大学院設置基準第14条による教育方法の実施

9-1. 目的及び必要性

本共同獣医学専攻は、国際通用性を備えた社会を先導する博士を養成することを目的とする。そのためには、獣医学分野における基礎研究や臨床に携わっている社会人が望ましい。このことより、継続しながら就学できる環境を提供するために、本共同獣医学専攻において大学院設置基準第14条に定める教育方法を実施する必要がある。

9-2. 修業年限

獣医学分野の博士課程であるため、標準修業年限は4年とする。在学期間は標準修業年限の2倍の年数を超えることができない。

9-3. 履修指導及び研究指導の方法

研究指導教員は、履修計画について個別に学生の相談に応じ、随時面談等により指導・助言を行う。教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う。研究指導においては、主指導教員に加えて副指導教員2名を配置し、研究指導体制の充実を図り、博士論文作成まで一貫した指導を行う。

9-4. 授業の実施方法

博士課程の授業において、教育方法の特例による履修を希望する学生については、研究指導教員が相談に応じ、夜間や休日等の特定の時間において履修計画に支障がないよう便宜を図る。

9-5. 教員の負担の程度

共同獣医学専攻では、夜間開講等の特例措置の授業を担当する教員については、専門業務裁量労働制の適用に基づき勤務時間振り替え等の措置をとり、過剰な負担が生じないように調整を行う。

9-6. 施設設備等の利用や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置

両大学それぞれの施設設備等（「6. 施設・設備等の整備計画」参照。）が利用可能であり、教育研究を行うに当たって、社会人学生に対して支障のない環境を整えている。

10. 2以上の校地において教育を行う場合

共同獣医学専攻は、東京農工大学及び岩手大学がそれぞれのキャンパスにおいて共同教育課程を実施するものである。

10-1 校地の配置

共同獣医学専攻における教育課程は、東京都府中市を校地とする「東京農工大学大学院農学府共同獣医学専攻」及び岩手県盛岡市を校地とする「岩手大学大学院獣医学研究科共同獣医学専攻」において実施する。東京農工大学府中キャンパスは、JR 中央線「国分寺駅」（バス）、JR 武蔵野線「北府中駅」（徒歩）、京王線「府中駅」（バス又は徒歩）から、岩手大学はJR東北線「盛岡駅」（バス又は徒歩）からアクセスできる。北府中駅から盛岡駅までは約540kmの距離があり、新幹線を利用すれば、その所要時間は3時間であるが、頻繁に教員及び学生が両大学間を移動することは現実的ではない。しかしながら、本共同獣医学専攻に在籍する学生は、両大学全ての施設・設備を利用できるため、教育環境と資源を共有することが可能となり、教育の充実が図られる。

10-2 教員の配置

共同獣医学専攻における教育課程においては、シラバスとしての必要内容については両大学で共有している。また、学生は、各大学で開講される科目をそれぞれ受講し、相手方の大学で開講される科目については、遠隔講義システムにより受講することになるので、担当教員が頻繁に大学間を移動することはなく、過度の負担は生じない。

10-3 施設・設備

共同獣医学専攻における教育課程の実施については、既に複数教室に遠隔講義システムが整備されており、学生の校地間の移動等の負担は軽減され、学生は所属によらず、両大学の施設・設備を利用することができ、図書情報サービスについても各校地にいながらネットワークを介して両大学のサービスを享受することができる。

10-4 時間割等の配慮

共同獣医学専攻の科目によっては、集中的に講義・実習が受けられるように時間割などを配慮する。

11. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

共同獣医学専攻においては、両大学の校地の距離が大きいため、開講科目については、主として遠隔講義システムを利用して講義等を行う。遠隔講義については、遠隔講義システムを使用し、講義はリアルタイムで進行しているものにより行う。

遠隔講義システムは、両大学にそれぞれ必要な機器を配備し、インターネットを通じて行うものである。このシステムを使用した特徴の1つは講義を配信する側の大学では通常どおりの対面式の授業が実施されることである。

配信側の教員の映像や音声は、受信側の大学にリアルタイムで配信され、設置された大型液晶モニター・スピーカーで視聴する。また、授業に使用する教材や資料等も映像化され、システムを通じて配信される。受信側では、学生の様子は学生用カメラ及びマイクを通じて配信側の大学に送信され、教員用パソコンに映像が映し出される。配信側の教員が授業を進める際は、この映像により遠隔地の受講状況についても確認することができ、また受信側の学生からの質問にも対応可能となる。設置する高画質かつ高音質のものを使用するため、対面式の講義と遜色のない授業展開が可能となる。

12. 管理運営

12-1 両大学共同による運営

共同獣医学専攻に係る共同教育課程等に関する重要な事項を審議し、もって円滑な管理運営を行うため、「東京農工大学・岩手大学 大学院共同獣医学専攻連絡協議会」を設置する。

この連絡協議会においては、以下の基本的事項を中心に協議する。

- (1) 規則等の制定、改正及び廃止に関すること。
- (2) 共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- (3) その他共同教育課程の運営に関する重要事項

また、連絡協議会は、以下の者により構成される。

- (i) 構成大学の学長が権限を委ねる者 各2名
- (ii) 構成大学の共同獣医学専攻長
- (iii) その他協議会が必要と認めた者

連絡協議会の開催に関しては、原則として年に1回程度、遠隔講義システムを活用した会議を行い共同獣医学専攻の基本的事項について審議する。

また、協議会での協議内容は、各大学において共同獣医学専攻が属する学府又は研究科の会議若しくはこれに相当する会議に報告し、必要に応じて承認を得ることとする。

なお、共同獣医学専攻の諸事項について円滑に運営できるよう、共同獣医学専攻代議員会を毎月1回程度、遠隔講義システムを活用しつつ開催する。

事務組織については、各大学に担当部署をそれぞれ置き、上記連絡協議会と連携しながら教員及び学生を支援し、円滑な管理運営に努める。

12-2 各大学における管理運営組織

東京農工大学では、農学府教授会（学府長、副府長、専任教員から構成）を定期的で開催しており、教育研究に関する重要事項を審議している。具体的な審議事項は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了その他の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項、教員選考に関する事項等である。

また、教授会の運営を円滑に行うため、学府長、副府長、学府から選出された者を構成員とする農学府運営委員会を定期的で開催し、教授会からの委任事項等について本

運営委員会において審議、決定している。

岩手大学では、獣医学研究科教授会（農学部共同獣医学科、附属動物病院及び動物医学食品安全教育研究センターの専任教員から構成）を設置する。教授会は定期的開催し、教育研究に関する重要事項を審議する。具体的には、学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、学位の授与に関する事項、教育課程の編成に関する事項及び教員の選考に関する事項等である。

また、教授会の運営を円滑に行うため、研究科長、副研究科長、専攻長、連絡協議会委員及び事務長を構成員とする研究科運営委員会を定期的開催し、教授会から付託された事項等について本運営委員会において審議、決定する。

13. 自己点検・評価

13-1 全学的実施体制

東京農工大学及び岩手大学では従来からそれぞれの大学において自己点検・評価を実施している。共同獣医学専攻においては、各大学における自己点検・評価に係る組織とも連携し、連絡協議会の下で定期的に自己点検・評価を行い、結果を各大学にフィードバックし、組織活動及び教育研究活動の改善に取り組む。

東京農工大学（全学）では、本学役員会の下に置かれる全学計画評価委員会において、教育研究等の状況に係る自己点検・評価を実施している。全学計画評価委員会には、教育、研究、国際交流・広報・社会貢献、業務運営の四つの部会を置き（担当理事が部会長）、各部会が所掌する中期計画の進捗状況を管理している。

また、認証評価の受審に当たっては、全学計画評価委員会に全学自己点検・評価小委員会を設置し、認証評価項目に沿った自己点検・評価を実施している。

このほか、部局等において、教員の活動評価を行っており、その評価結果を全学的に審議・承認する機関として教員評価機構を設置している。

岩手大学では、人事制度・評価委員会による教員評価及び職員評価を行うとともに、平成19年4月に評価室を設置し、点検評価委員会を中心として教育研究活動等の自己点検・評価を実施している。具体的には中期目標・中期計画の年度ごとの実施状況を点検評価し、PDCAサイクルによる進捗状況及び目標の達成を各部局において確認し、評価室にて検証している。また、教育研究活動に関する外部機関による認証評価を受け、その評価結果を公表している。

13-2 実施方法

東京農工大学では、全学計画評価委員会において、法人評価に係る自己点検・評価スケジュールを作成し、そのスケジュールに基づき年に数回、年度計画（中期計画）の進捗状況を確認している。進捗が遅れている年度計画については、全学計画評価委員会において担当部会長から理由や今後の取組等について説明を求め、着実な年度計画（中期計画）の達成に努めている。また、年度末には、年度計画の達成状況を確認し、「業務の実績に関する報告書」として取りまとめている。

認証評価については、全学自己点検・評価小委員会において、認証評価項目に沿った自己点検・評価を実施し、「自己評価書」として取りまとめている。また、平成25年度には、認証評価項目等を準用し、農学・工学両研究院において研究活動に関する

外部評価を実施している。

このほか、毎年度、常勤教員を対象とした教員活動評価を実施している。教育、研究、社会貢献・国際交流、管理運営の各領域の諸活動について、部局等において評価を実施し、部局等の評価が適切に行われているか、教員評価機構において評価結果を審議・承認している。

岩手大学では、平成17年度から2年に1度、過去2年分を対象にした教員評価を実施している。評価指針は、教育研究等の水準の向上及び中期目標・中期計画の達成に資するものであり、評価項目は、「教育活動」、「研究活動」、「社会貢献活動」、及び「大学運営活動」である。部局としての評価（一次評価）後、部局の評価が適切に行われているかの観点で、人事制度・評価委員会での二次評価が行われる。

また、平成18年度から職員評価を毎年度実施している。職員評価は、事務職員、専門職員（技術系）、技能職員、医療職員及び附属学校教員を対象に、職務遂行能力や各自が自主設定した目標の達成状況等を公正かつ客観的に評価することにより、人材育成・人事管理等に有効に活用するとともに、職員の資質向上及び業務の効率化を図ることを目的としている。

13-3 評価結果の活用・公表

東京農工大学では、法人評価については、業務の実績に関する報告書とともに、評価結果をWebページ上で公表している。なお、評価結果において指摘された課題等については、担当部署に改善対策を依頼するとともに、対応・改善状況を取りまとめ、Webページで公表している。

認証評価及び外部評価についても、自己評価書とともに評価結果をWebページで公表している。なお、外部評価において、改善を要する点として指摘された、「論文発表や申請等に係る支援の強化」を受けて、科研費採択者を対象とした報奨金を支給する制度を導入するなどの対応を行っている。

岩手大学では、中期目標・中期計画の年度ごとの実施状況に関する部局による一次評価、評価室による二次評価結果については、点検評価委員会で確定し、文部科学省に報告するとともに、次年度の年度計画策定に活かしている。人事制度・評価委員会による教員及び職員評価の結果については、本人に通達するとともに、教育研究等の水準向上に資するための人材の適正配置に反映している。大学機関別認証評価の結果については、Webページ上で公表するとともに、評価室から点検評価委員会及び教育研究評議会に改善の提言を行うことにより、教育研究活動等の推進・向上を図っている。

14. 情報の公表

東京農工大学及び岩手大学では、各大学の公式Webページにおいて、大学の理念、中期目標、中期計画及び大学が目指す方向性を発信しているとともに、カリキュラム、シラバス、学則等の各規則や入学定員、学生数、教員数等の大学の基本情報を公開している。

14-1 大学としての情報提供

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織及び教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

①～⑨に関する主な事項を掲載しているサイト

《東京農工大学》<http://www.tuat.ac.jp/outline/>

《岩手大学》<http://www.iwate-u.ac.jp/annai/>

14-2 各大学における情報提供

1) 東京農工大学

東京農工大学においては、大学の公式Webサイトのほか、本共同獣医学専攻のWebサイトにおいて掲載する。

(i) 大学 Web ページを活用した情報提供

- ① ニュース
- ② イベント情報
- ③ 各学部及び大学院
- ④ 入試情報
- ⑤ 学生生活

(ii) 教育研究活動等の状況に関する情報の提供

(学校教育法施行規則第172条の2による)

<http://www.tuat.ac.jp/outline/jyouhoukougai/kyouikukenkyl>

① 大学憲章、教育研究上の目的

<http://www.tuat.ac.jp/outline/overview/daigakukensho/>

② 組織

<http://www.tuat.ac.jp/outline/overview/organization/kikouzu/>

③ 学位授与方針

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/

④ 教育課程編成・実施の方針

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/

⑤ 入学者受入方針

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/

⑥ シラバス

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/course/syllabus/

(iii) 大学運営情報

<http://www.tuat.ac.jp/outline/>

① 財務情報

<http://www.tuat.ac.jp/outline/jyouhoukougai/houjin/zaimu/>

② 認証評価情報

http://www.tuat.ac.jp/outline/kei_hyou/ninsyouhyouka1/

③ 研究者行動規範

<http://www.tuat.ac.jp/outline/overview/koudokihan/>

④ 教員評価

http://www.tuat.ac.jp/outline/kei_hyou/kyouinhyouka/

⑤ 大学評価情報

http://www.tuat.ac.jp/outline/kei_hyou/daigakuhyouka/

⑥ 議事録

・ 役員会

http://www.tuat.ac.jp/outline/overview/organization/h28_giji/

・ 教育研究評議会

http://www.tuat.ac.jp/outline/overview/organization/h28_giji/

・ 経営協議会

http://www.tuat.ac.jp/outline/overview/organization/h28_giji/

(iv) 卒業生の進路情報

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/career/sinro/syusyokujoukyo/

(v) キャンパスライフ

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/

(授業・履修、大学生活、学費・経済支援・就学支援、学務情報、サークル・ボランティア活動、就職・留学、等)

(vi) 各学府の Web ページ情報

<http://www.tuat.ac.jp/department/>

(vii) センター附属施設等 Web ページによる教育研究等の情報提供

<http://www.tuat.ac.jp/outline/facility/>

2) 岩手大学

岩手大学ではWebページや広報誌の発行等を通じて、広く社会へ情報の提供を行っている。具体的には大学本部に「広報室」を設置し、担当副学長の下で、大学情報（教育研究成果、社会貢献、公開講座、産学官連携の成果など）の公開を推進している。

本共同獣医学専攻においても広報委員会を設置して情報提供を行っており、今後も広く社会へ情報提供を行っていくこととしている。

大学情報の公開・提供及び広報は、担当副学長が統括する「広報室」で一元的に取り扱われている。主な情報提供活動は以下のとおりである。

(i) 大学 Web ページを活用した情報提供

- ① ニュース
- ② イベント情報
- ③ 各学部及び大学院
- ④ 入試情報
- ⑤ 学生生活

(ii) 教育研究活動等の状況に関する情報の提供

(学校教育法施行規則第172条の2による)

<http://www.iwate-u.ac.jp/kyoikujoho/index.shtml>

- ① 理念、目標

<http://www.iwate-u.ac.jp/shokai/rinen.shtml>

②組織

<http://www.iwate-u.ac.jp/shokai/sosikizu.shtml>

③学位授与方針

http://www.iwate-u.ac.jp/policy/di_policy/info.shtml

④教育課程編成・実施の方針

http://www.iwate-u.ac.jp/policy/cu_policy/info.shtml

⑤入学者受入方針

http://www.iwate-u.ac.jp/nyusi/admission_policy.html

⑥シラバス

http://ia.iwate-u.ac.jp/i_index.htm

(iii) 大学運営情報

<http://www.iwate-u.ac.jp/unei/index.shtml>

①財務情報

<http://www.iwate-u.ac.jp/unei/zaimu.shtml>

②認証評価情報

<http://www.iwate-u.ac.jp/hyouka/ninshouhyouka.shtml>

③研究者行動規範

http://www.iwate-u.ac.jp/unei/kenkyusha_kihan.shtml

④教員評価

<http://www.iwate-u.ac.jp/kikakukoho/h24hyoka.pdf>

⑤大学評価情報

<http://www.iwate-u.ac.jp/hyouka/index.shtml>

⑥議事録

- ・ 役員会

<http://www.iwate-u.ac.jp/gijiroku/yakuinkai/>

- ・ 教育研究評議会

<http://www.iwate-u.ac.jp/gijiroku/kyoikukenkyu/>

- ・ 経営協議会

<http://www.iwate-u.ac.jp/gijiroku/keiei/>

(iv) 卒業生の進路情報

<http://www.iwate-u.ac.jp/career/shinrodata.html>

(v) キャンパスライフ

<http://www.iwate-u.ac.jp/zaigakusei/>

(授業・履修、大学生生活、学費・経済支援・就学支援、学務情報、サークル・ボランティア活動、就職・留学、等)

(vi)各研究科（改組前）の Web ページ情報

- ①人文社会科学研究科 <http://jinsha.iwate-u.ac.jp/master/>
- ②教育学研究科 <http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/index.html>
- ③工学研究科 <http://www.eng.iwate-u.ac.jp/jp/index.html>
- ④農学研究科 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/master/index.html>

(vii)センター附属施設等 Web ページによる教育研究等の情報提供

<http://www.iwate-u.ac.jp/annai/>

(viii)岩手大学広報誌「Hi! こちら岩手大学」

岩手大学の魅力を満載したタブロイド版広報誌。学内探訪、研究紹介、キャンパスライフなどを紹介。http://www.iwate-u.ac.jp/koho/hi_iwateuniv.shtml

15. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

東京農工大学及び岩手大学は、各大学において既に全学的に行われている学生及び教職員自身による授業評価とFD（ファカルティ・ディベロップメント）研修会に参画し、授業内容の改善を図る。共同獣医学専攻設置後は、従前と同様の授業改善プログラムを継続していく。

また、年に1回程度、共同獣医学専攻における共同教育課程を実施するに当たっての両大学合同のFDを、テレビ会議システム等を活用して実施する。

なお、両大学におけるこれまでの教員の資質の維持向上の方策については以下のとおりである。

東京農工大学では、教員資質の向上のため、既に大学全体及び農学府として実施しているFDの活動内容とその結果を効果的に両専攻の教育効果の向上に活用する。これまでのFDに関する取組内容を共有管理・相互公開し、教員資質の維持向上に努めることとする。具体的には、以下の事項等について推進していく。

教育の質の向上のための取組として、シラバスの作成や授業アンケート調査を実施するとともに、各大学の専攻等とも連携し、既に実施している取組等を積極的に取り入れ、学府の下で教育の質の向上及び改善のためのPDCAシステムの構築に取り組む。

研究能力の質の向上の取組として、教員は研究組織である農学研究院に配置されており、研究院での先進的研究を推進している。その研究力向上のために、最先端の研究設備等のインフラを整備し、国際的拠点として研究発信する環境を整えている。また、研究成果の産業応用の推進においては、学内に設置した先端産学連携研究推進センターとの連携により、教員個々の研究成果が大学の知的財産として産業応用されるシステムを運営している。さらに、国際センターを設置し、海外の国際研究拠点や連携大学との共同研究の推進が図れる環境を整備している。これら取組により、本学は研究に基軸を置く大学院大学として、所属教員の研究レベルは国際的に高く評価されている。

また、職員に必要な知識・技能を習得させるためとともに、必要な能力及び資質を向上させるための研修として、以下に掲げる研修を実施し、他機関で開催される研修にも参加している。

1. 階層別（西東京地区国立大学法人等）

初任職員研修、中堅職員研修

2. 階層別（学内）

新人オリエンテーション研修、新人職員研修、新任教職員研修、学内事務職員（係長）研修

3. 目的別

役員等講演会、事務職員イノベーション研修、パソコン研修、人事評価制度評価者研修、人事評価制度被評価者研修、メンタルヘルス研修

4. 専門別

学内英語研修、リーディングプログラム教職員海外実務研修、会計研修、放送大学受講研修、他機関等の研修（人事関係の各種研修、オープンアカデミー（東京外国語大学）など）

岩手大学では教育推進機構を中心に、全学的な教員のFD研修等により教育内容等の改善を図る取組を実施するとともに、学長のリーダーシップ経費により、グローバル化に対応した教育内容の改善、外国語等による国際的に水準の高い授業の提供を目的に教員海外派遣事業を実施し、教員の教育能力の資質向上に取り組んでいる。なお、特に大学院教育の改善に係るFDとしては、研究者に求められる行動規範、研究倫理に関する学習会や学修成果のアセスメントに関する学習会等を開催している。

また、職員に必要な知識・技能を習得させるためとともに、必要な能力及び資質を向上させるための研修として、以下に掲げる研修を実施し、他機関で開催される研修にも参加している。

1. 階層別（東北地区国立大学法人等）

初任職員研修、中堅職員研修、係長研修、補佐研修

2. 階層別（学内）

新採用職員研修、課長実践研修

3. 目的別

パソコン研修、人事評価制度評価者研修、メンタルヘルス研修、男女共同参画に関する研修

4. 専門別

学内英語研修、海外派遣研修、実務研修（学務、財務）、放送大学受講研修、他機関等の研修（国際交流担当職員研修、マネジメント研修など）

設置の趣旨等を記載した書類 資料

目 次

資料 1	連合大学院から共同大学院への展開	1
資料 2	共同獣医学科と共同獣医学専攻における教育の接続性	3
資料 3	共同獣医学専攻 講座体制	5
資料 4	連携機関との協定書	7
資料 5	就業規則	11
資料 6	履修モデル	39
資料 7	博士論文作成指導の概要	43
資料 8	倫理審査委員会等規則	45

資料1

連合大学院から共同大学院への展開



岐阜連獣の実績

- 岐阜大学を基幹校とし、帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学が参加
- 1大学では実施できない、幅広い応用力の育成と国際通用性に配慮した教育プログラムを提供(科学英語の導入、5連携機関での実践実習、海外とのジョイント・ワークショップ開催など)
- 修了生の50%以上が大学や国公立及び民間研究所の研究職に就職し、これまでの25年間にわたり、我が国の獣医学分野の発展に貢献

- ・ 獣医学博士に求められる地域の要求は、多様化するとともに、より専門化・高度化
- ・ 両大学が有する独自の理念や強み、特色を博士教育により深く反映させることが必要

再編の理念

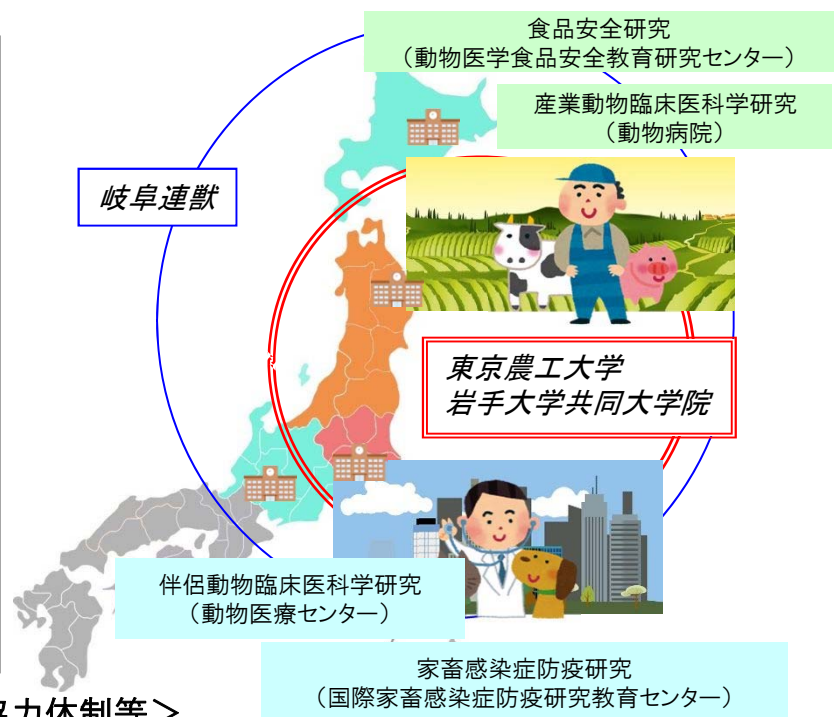
各地域が抱える多様な社会的要求に応え得る獣医学博士の育成を行い、両大学の強みを活かして、東日本を中心に人材養成ニーズに的確に応えていくことを理念としている。

- ① 農工大:首都圏に位置
動物医療センター:伴侶動物の高度獣医療の実践
国際家畜感染症防疫研究教育センター:首都圏にある国立研究所と連携
- ② 岩手大:日本有数の畜産物生産基地に位置
附属動物病院産業動物:高度獣医療の教育研究の展開
動物医学食品安全教育研究センター:東北地域の行政機関やNOSAIと連携
- ③ 両大学が共同することによって、東日本における食品の生産と消費、安全安心、家畜衛生・公衆衛生の面など、地域社会の人材養成の多様化に貢献することを目標とする。

再編の理由

共同大学院を設置して獣医学教育の充実・強化を目指し、共同で獣医学分野の博士課程の人材育成に取り組む。

- ① 大学全体を通じた機能強化に資するとともに、地域密着型の教育研究を展開し、地域課題に対応。
- ② 学生は、両大学への帰属意識が高くなり、各大学の教育プログラムにも参画可能となる。
- ③ 共同獣医学科(学部)と共同獣医学専攻(大学院)による、一体的かつ接続した教育研究が可能となる。



<今後の岐阜連獣構成4大学の協力体制等>

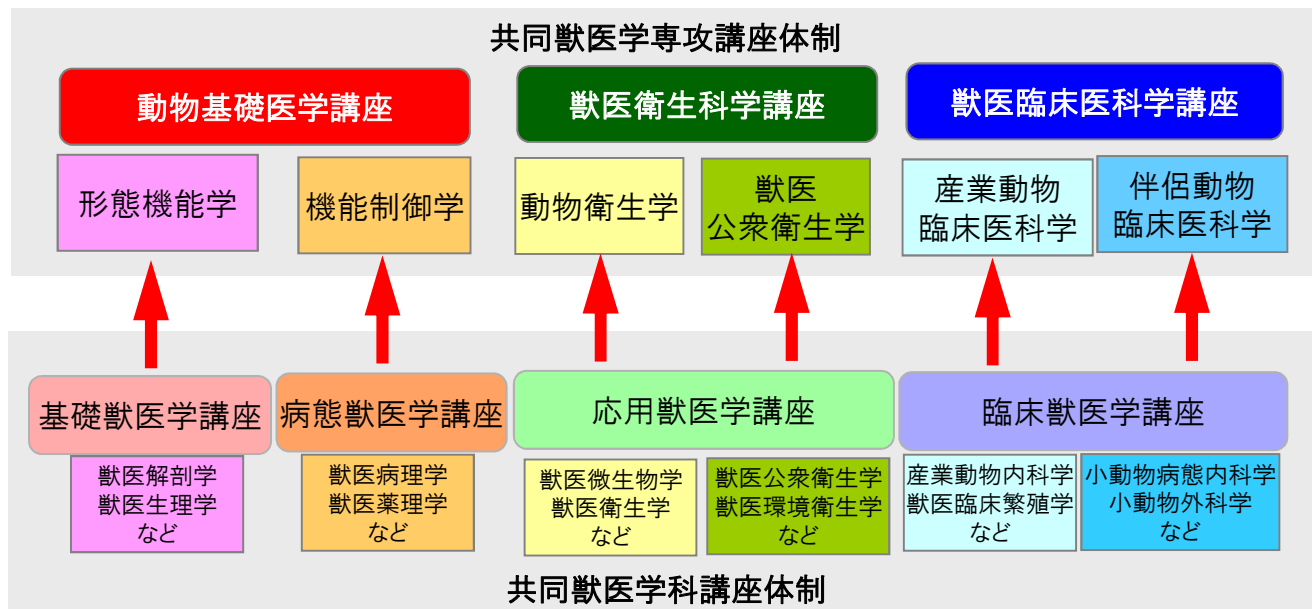
岐阜連獣でこれまで培ったノウハウを活かし、4大学での授業連携や学位審査の協力体制の構築などで岐阜大学及び帯広畜産大学との協力関係を継続

共同獣医学科と共同獣医学専攻における教育の接続性



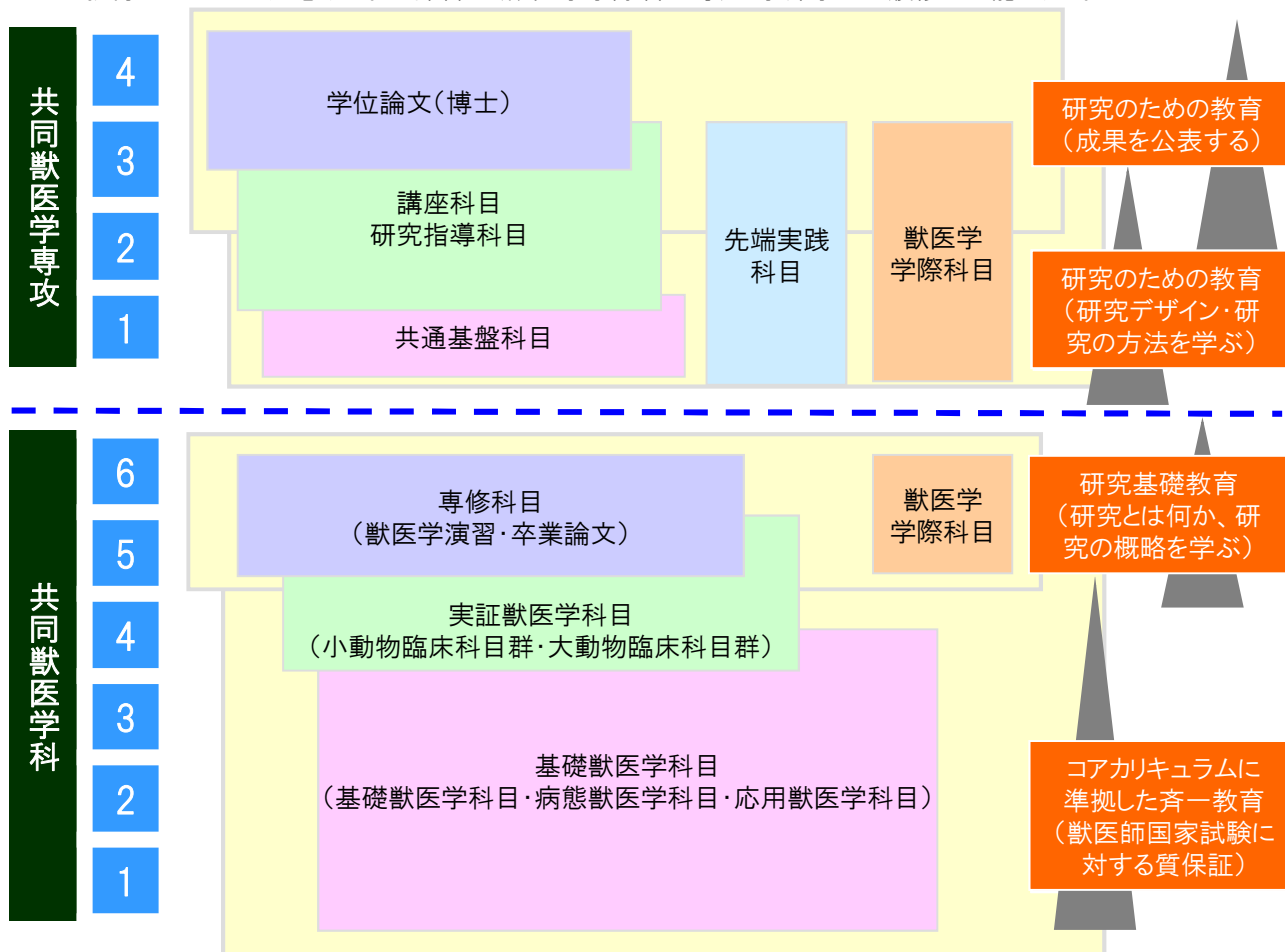
講座体制の接続性

共同獣医学専攻の講座体制は、獣医衛生学及び獣医臨床学の教育を充実させた体制とするため、共同獣医学科の4講座体制を基盤として3講座体制に再編成する。



カリキュラムの接続性

共同獣医学科の専修科目(獣医学演習・卒業論文)による研究基礎教育を基盤とし、共同獣医学科の教育を発展した形の教育プログラムを用意する。一部科目(獣医学学際科目等)は学部学生の履修を可能とする。



共同獣医学専攻 講座体制



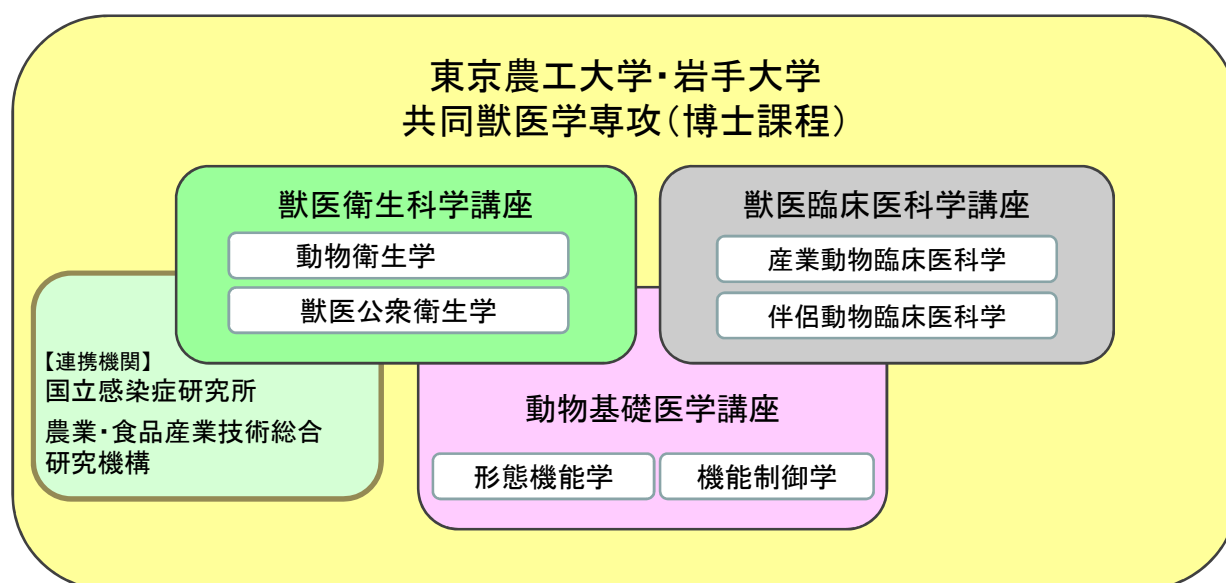
東京農工大学 Iwate University

講座体制の概要

共同獣医学専攻に3共同講座を設置する。また、各講座に専門に応じ2教育・研究分野を置く。

共同獣医学専攻は、①獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、②動物衛生及び公衆衛生に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、③産業動物及び伴侶動物の獣医療に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材、を育成することを目的に掲げている。これらの目的を達成するために、「動物基礎医学講座」、「獣医衛生科学」及び「獣医臨床医科学講座」を設置し、それぞれの教育研究を担当する。

また、連携機関(連携大学院)の参加により各講座の教育研究体制を強化する。



共同講座名	教育・研究分野	研究指導内容
動物基礎医学	形態機能学	動物の解剖・生理に関する高度基礎獣医学的研究
	機能制御学	動物の病態に関する高度基礎獣医学的研究
獣医衛生科学	動物衛生学	家畜感染症と家畜衛生に関する高度応用獣医学的研究
	獣医公衆衛生学	獣医公衆衛生学に関する高度応用獣医学的研究
獣医臨床医科学	産業動物臨床医科学	産業動物における高度動物臨床医科学的研究
	伴侶動物臨床医科学	伴侶動物における高度動物臨床医科学的研究

- 研究教育指導は、主指導教員(自大学)に加え、副指導教員2名(自大学+相手大学)とする。
- 副指導教員の講座、研究指導分野は問わず、学生の指向に合わせて全ての講座の教員が担当できる。
- 連携機関として、国立感染症研究所及び農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生部門)が参加し、共同獣医学専攻の教育研究を強化する。

国立大学法人東京農工大学と国立感染症研究所における
教育研究への協力に関する協定書

国立大学法人東京農工大学（以下「甲」という。）と国立感染症研究所（以下「乙」という。）は、相互に連携し、東京農工大学大学院農学共同獣医学専攻（仮称）（以下「共同獣医学専攻」という。）の教育研究活動の一層の充実を図るとともに、相互の研究交流を促進し、その成果を学術及び科学技術の発展に寄与するため、次のとおり協定を締結する。

（客員教員の委嘱等）

第1条 甲は、乙と協議の上、甲の定めるところにより乙の研究者を農学府の客員教員として委嘱することができるものとする。なお、客員教員の資格審査については、甲の教員資格審査手続きに基づき行うものとし、客員教授又は客員准教授を称せしめることができる。

2 甲が共同獣医学専攻の教育研究の充実を必要とする分野の研究者について、客員教員候補者を乙が推薦し、甲の教員資格審査手続きに従い選考する。客員教員への委嘱については、甲と乙の手続きに則して行うものとする。

3 客員教員の任期は、原則として1年とする。ただし、研究指導等を行う大学院学生が所定の課程を修了するまでは、更新するものとする。その後は1年ごとに更新することができるものとする。

4 甲は、客員教員に対して給与を支給しないものとする。

5 客員教員は、甲の教員と協力し共同獣医学専攻の学生（以下「学生」という。）の研究指導等を行うものとする。

6 客員教員が乙において学生の研究指導等を行う場合は、乙の定めるところによる。

7 客員教員は、共同獣医学専攻の管理・運営に関する事項を審議するときを除き、甲の共同獣医学専攻会議等の構成員となるものとする。

（副指導教員）

第2条 甲に副指導教員を置き、副指導教員は、研究指導担当の客員教員に協力して学生の研究指導等に関し、補完的役割を担うものとする。

（学生の研究指導）

第3条 学生の研究指導等を行う場所は甲と乙の協議によるものとし、乙において研究指導等を受ける場合の学生の資格又は身分は、乙の定めるところによる。

（経費）

第4条 客員教員が甲において行う連携、協力に関する研究経費、研究旅費及び学生に対する経費は予算の範囲内で甲が負担するものとする。

（使用料等）

第5条 客員教員が乙において学生の研究指導等を行う場合の施設、設備の使用料等については、原則として無償とする。なお、消耗品等（パソコン及びタブレットを除く。）については、必要に応じて甲の予算の範囲内で購入し、乙に提供できるものとする。

（研究成果の公表）

第6条 学生が、研究指導等を受けて得た研究成果の公表は、甲と乙の協議に基づき行う。ただし、乙において研究指導中に得た情報・知識若しくは成果を発表しようとするときは、あらかじめ、乙の承諾を得るものとする。

（特許権等の取扱い）

第7条 学生が乙において研究指導等を受けて得た研究成果に係る特許権等の知的財産権は、乙の定めるところとする。ただし、副指導教員の指導又は協力により当該研究成果の全部又は一部が得られたと認められる場合には、甲と乙の協議に基づきその帰属を決定するものとする。

（損害賠償）

第8条 乙において、学生が関与する事故が生じた場合は、事故発生の状況について調査の上、甲と乙の協議に基づき処理するものとする。

（災害傷害保険）

第9条 甲は、乙において研究指導を受ける学生に対し、学生教育研究災害傷害保険に加入することを義務付けるものとし、乙は当該災害傷害保険に加入しない学生の乙への立ち入りを禁止することができるものとする。

（その他）

第10条 乙は、乙において研究指導等を受ける学生が、乙に提出した誓約書記載の事項を遵守しないとき、又は乙が定める身分として適当でない言動若しくは行動があると認めるときは、当該学生に対し乙が定める身分を取り消すことができるものとする。

2 その他、上記に定めのない研究指導等及び学位授与の審査等に関する必要な事項は、甲の定める諸規則を適用するものとする。

3 この協定に定める事項に疑義が生じた場合、若しくは改定の必要がある場合、又はこの協定に定めるもののほか必要な事項を定める場合は、甲と乙が協議して処理するものとする。

(記載事項の変更)

第11条 この協定書の変更等は、必要に応じ甲と乙が協議の上、双方合意により行うものとする。

(協定の発効・失効)

第12条 この協定書は、平成29年4月1日から効力を有するものとし、協定の失効については、甲及び乙が協議するものとする。

協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲、乙双方が押印の上、各1通を所持するものとする。

平成29年2月9日



甲 所在地：東京都府中市晴見町3-8-5
大学名：国立大学法人東京農工大学
学長名：学 長 松永 晃



乙 所在地：東京都新宿区戸山1丁目2-3番1号
機関名：国立感染症研究所
所長名：研究所長 倉根 一郎

